児童生徒が自分らしさを発揮できる授業づくり

平成２９年度　研究紀要　第３８集

小学部１・２年　日常生活の指導
「あさのかつどう、あさのかい」

中学部１年　職業・家庭科
「家庭の仕事を知ろう②」

高等部１年　家庭科
「見つめてみよう家庭の仕事Ⅱ」

秋田県立横手支援学校

目 次

はじめに　校長　佐々木明美

全体研究
Ⅰ　研究の概要　1

Ⅱ　研究のまとめ　8

各学部の実践
Ⅰ　小学部の実践　10

Ⅱ　中学部の実践　21

Ⅲ　高等部の実践　33

参考資料
・小学部　役割を果たす、関わりに関する段階表（案）～朝の活動・朝の会において～
・中学部　職業・家庭科における指導目標及び具体的な指導内容表（案）
・高等部　家庭科指導内容チェック表（案）

・資料１　平成２９年度キャリア教育全体計画
・資料２　授業づくりの基礎・基本「横手のスタンダード」
・資料３　「主体的な学びにつながる自分らしさを発揮できる授業づくりの視点表」
・資料４　授業づくり振り返りシート
・資料５　単元構想図
・資料６　参観オーダー記入シート

あとがき　教頭　松井　克彦

研究同人

は　じ　め　に

平成２７・２８年度と文部科学省委託「特別支援教育に関する実践研究充実事業」の指定研究に取り組んだ。授業づくりと教育課程の編成という両輪の研究となったが、２年次となり研究が軌道にのってからは、この２つが相互にかみ合い結果を得た実感がある。
研究の視点が定まってからは、職員の研究意欲がさらに高まり授業研究会は活性化した。

平成２９年度の本校の小学部・中学部・高等部の教育課程は、２か年の研究を経て編成したものである。研究テーマであった「ライフキャリアの視点」が加味されており、中学部において「職業・家庭科」が、高等部において「家庭科」の教科が導入された。
各学部の教育課程の編成において、時数の配分や指導内容の選択・配列などに検証は必要ではあるが、児童生徒の豊かな生活に欠かせない指導であり、小学部・中学部・高等部の一貫性を意識した指導に近づくことができたと評価している。

そして今年度は、新教育課程による「研究成果の実践年」と捉えた。研究テーマには「児童生徒が自分らしさを発揮できる授業づくり（役割を果たすことを通して、気付き、考え、判断し、表現・行動し他者と関わる）」を掲げた。新たに大きく研究の舵をきることなく、２か年の研究の成果を教育課程の中で根付かせること、その教育的効果を教員一人一人が日々の授業づくりを通して実感することを目指したものである。

そして、研究主任には、一つの方策があった。「改善授業」への取り組みである。その合い言葉は「日々の授業から、お互い見合って授業改善！」。これまでの授業研究会は、参観者から感想を伺い、意見交換した後、助言の方から改善の方向性が示され、そこで授業を終結してしまうことが多かった。そこで、今年度はさらに深く授業に踏み込んでみた。
授業研究会でいただいた指導助言や意見を、もう一度、授業者が咀嚼し、自分の授業を見直し、授業を再構築するという「改善授業」に挑戦した。小学部１年から高等部３年までのすべての学年で授業研究がなされた。再度の授業提示は、先生方の負担になるのではと心配もしたが、先生方は授業に真摯に向き合い、しっかりとその期待に応えてくれた。良い授業をつくる、見合うことの大切さを実感できていた。
この一人一人の教員の授業力が、次年度以降の本校の教育実践の基盤になるであろうと大いに期待している。

本校は、平成３１年度に、開校４０周年を迎える。時代による社会状況の変化の他、児童生徒の実態の多様性による教育のニーズの高まり、それに対応する学習指導要領の改訂などによって、教育の方向性も幅も少しずつ変化し形を変えていくことだろう。

本研究を進めるに当たり、ご助言とご指導賜りました秋田県教育庁特別支援教育課指導主事の先生方、授業研究会、研修会にご参会いただいた多くの先生方に深く感謝申し上げます。今後とも変わらぬご指導を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

校　長　　佐々木　明美

全体研究

Ⅰ　研究の概要

1　研究主題

児童生徒が自分らしさを発揮できる授業づくり

2　研究主題設定の理由

（1）主題の捉え

○「自分らしさ」とは（本校ライフキャリアの視点より）

自分の役割を果たして活動することを通して、人と社会と関わる、その関わり方の違いのこと。

○授業の中で「自分らしさを発揮する」とは

役割を果たすことを通して、周囲の情報を得ながら、自分の気持ちなどに気付き、考え、判断し、表現（行動）しながら、他者と関わること。

（2）本校の実態から

近年本校の児童生徒の障害等が重度・重複化、多様化の傾向にある。様々な実態の児童生徒が在籍し、児童生徒の目指す自立と社会参加の姿も一人一人様々である。こうした現状の中、児童生徒の自立と社会参加につながる成長を導くためには、児童生徒を生涯にわたって支援するという立場や本人の価値観や自己決定の積み重ねがキャリアの形成につながるという考え方から、ライフキャリアの視点を大切にした本人主体の指導・支援を継続して推し進めていく必要がある。

（3）過年度研究の課題、教育課程編成の評価・改善から

これまでライフキャリアの視点を基にした教育課程の編成と授業づくりを目的として研究を推進してきた。その中で、キャリア教育全体計画を作成し、系統性のある指導目標や内容を設定し、実践・評価を行うことを通して、教育課程の評価・改善をしてきた。

この教育課程の評価・改善を受け、次年度への課題として、小・中学部の個別・小集団から高等部の集団への移行を意識した学習や学校から家庭・地域へその役割を広げる学習の必要性が挙げられた。換言すると児童生徒のキャリアを人的・空間的に「広げる」ことを意識した教育を展開する必要があるといえる。拡大した集団や空間の中で児童生徒が新しい役割が分かり、その役割との関係や価値を判断し、自己選択しながら取り組んでいくことになる。そしてそれぞれの児童生徒の他者や社会との関わり方が「自分らしさ」につながると考える。

（4）特別支援教育等の動向

学習指導要領の改訂において知的障害の各教科等の目標や内容について、育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づき整理されることになり、思考力、判断力、表現力の育成が重視されている。さらに、昨年度からの障害者差別解消法の施行を受けて、合理的配慮の提供の際に、本人からの意思表明が重要な事項となっている。

（5）研究主題に迫るために

これらの現状を踏まえ、児童生徒の自立と社会参加につながる主体性を育むために授業の中で「自分らしさを発揮する」姿を目指したい。こうした姿を引き出すために、児童生徒一人一人の自立と社会参加の姿を見通し、集団や活動場所を広げることを意識した単元計画を作成す

る。そして、授業の中での「自分らしさ」について具体化し、「気付き、考え、判断し、表現する」ことを支援するための発問やねらいの設定や評価の工夫を行い、学習の評価を児童生徒自身が振り返ることができる児童生徒主体の授業づくりを積み重ねていく。

3　研究仮説

集団や活動場所を広げることを意識した単元を設定し、授業の中での「自分らしさ」を具体化し、「気付き、考え、判断し、表現する」ための手立てを検討するなどの授業改善を積み重ねることで、児童生徒が自分らしさを発揮し、主体的に学習に向かう姿を育むことができるだろう。

4　研究の方法、内容

（1）研究の方法

○研究の対象となる指導の形態は、学部ごとに効果的に主題に迫ることができる指導の形態を選定する。（小学部：日常生活の指導、中学部：職業・家庭科、高等部：家庭科）

①授業づくり

ア　個別の支援計画作成等を通した「育てたい力」の確認と検討

昨年度末に設定された「育てたい力」を担任間で確認、検討する。特に「自分らしく生きる」視点について検討する。

イ　地域資源の活用、集団や活動場所を広げることを意識した単元計画の作成

授業改善コーディネーターを活用した単元構想会を実施する。授業研究会の前に各学習グループについて行う。

ウ　授業の中で一人一人の児童生徒の「自分らしさを発揮する姿」の具体化と共通理解

「育てたい力」、個別の指導計画等の各様式、普段の実態把握に基づき、児童生徒一人一人の「自分らしさを発揮する姿」を具体化し、指導案の個別の目標や本時の目標に反映する。

エ　授業づくりにおいて大事にしたいポイントを共有した授業づくり

横手のスタンダード、授業づくり振り返りシート等を活用し、授業づくりのポイントを全職員で共有しながら、授業づくりに臨む。

オ　授業改善の成果と課題の蓄積、全職員による共有

授業者側の課題などから事前に授業参観の視点を焦点化しておく。授業研究会では改善案の提示を主な目的とし、その後、改善授業を行う。改善前の課題、改善後の変容などについて、成果と課題をまとめ、全職員に提示する。

②職員研修会、情報提供

研修ニーズの把握のために、授業者に対してのヒアリングや全教職員へのアンケート調査を実施する。内容に応じて、職員研修会の設定や資料による情報提供を行う。

（２）研究の進め方

○全校授業研究会（３回）、学部授業研究会（３回）、ミニ授業研究会（各学習グループご１回）

Ｐ　単元構想会（授業改善コーディネーターを交え、横手のスタンダード等を活用した単元構想を行う）

↓

Ｄ　研究授業・授業研究会（自分らしさを発揮する姿の具体化を目指す授業の実施）

↓

Ｃ　改善授業（全校、学部授業研対象グループはミニ授業研で検証、評価）

（その他のグループは授業づくり振り返りシートを活用し授業者で検証、評価）

↓

Ａ　単元の評価（授業づくり振り返りシートを活用して、授業者間で評価）

（成果と課題の蓄積、全職員による共有）

↓

学校全体としての授業改善のサイクルへ　　他学部、他グループの授業実践への還元

（３）研究計画

研究計画については以下の表の通りである。

表１　研究計画

実施時期	実　施　内　容
平成２９年 ４月	・研究部会（研究の方向性検討）　・教育課程検討委員会①（研究の方向性確認） ・全校研究会①（研究概要の確認、共通理解）
５月	・学部研究会①（学部研究の共通理解）　・職員研修会①（ＩＣＴ機器の活用について） ・ミニ授業研究会【～12 月】（各学習グループの授業研究）
６月	・学校評議員会①（研究内容の説明と評価依頼）
７月	・学部研究会②（学部研究の進捗状況確認） ・教育課程検討委員会②（１学期の評価及び改善案検討） ・職員研修会②（自立活動について）
８月	・全校研究会②（進捗状況と推進の方向性の確認） ・職員研修会③（次期学習指導要領について）
９月	・全校授業研究会①（高等部授業研究と学部研究推進状況の報告） ・学部授業研究会①②（中・高授業研究と学部研究推進状況の報告） ・職員研修会④（話し合いについて） ・学部研究会③（研究推進の中間評価）
１０月	・学校評価委員会①（前期の評価及び後期改善案の確認）
１１月	・学部研究会④（授業実践の成果と課題の確認、まとめの方向性の確認） ・学部授業研究会③（小学部授業研究と学部研究推進状況の報告） ・全校授業研究会②（中学部授業研究と学部研究推進状況の報告）
１２月	・教育課程検討委員会③（２学期の評価、次年度の方向性の検討） ・職員会議（紀要原稿作成について） ・職員研修会④（ユニバーサルデザインについて） ・全校授業研究会③（小学部授業研究と学部研究推進状況の報告）
平成３０年 １月	・学部研究会⑤（授業実践の成果のまとめ、指導内容表の作成など） ・教育課程検討委員会④（次年度の時程表の検討）
２月	・学校評議員会②（研究推進への評価） ・学校評価委員会（研究推進の評価及び次年度への改善案の確認） ・全校研究会③（全校研究の成果・課題の共有、来年度の方向性について） ・研究紀要の作成（研究のまとめ、校外への発信） ・教育課程検討委員会⑤（次年度の教育課程の決定）
３月	・研修報告会（先進校訪問の情報共有等）

（４）研究組織

研究組織については以下の図の通りである。

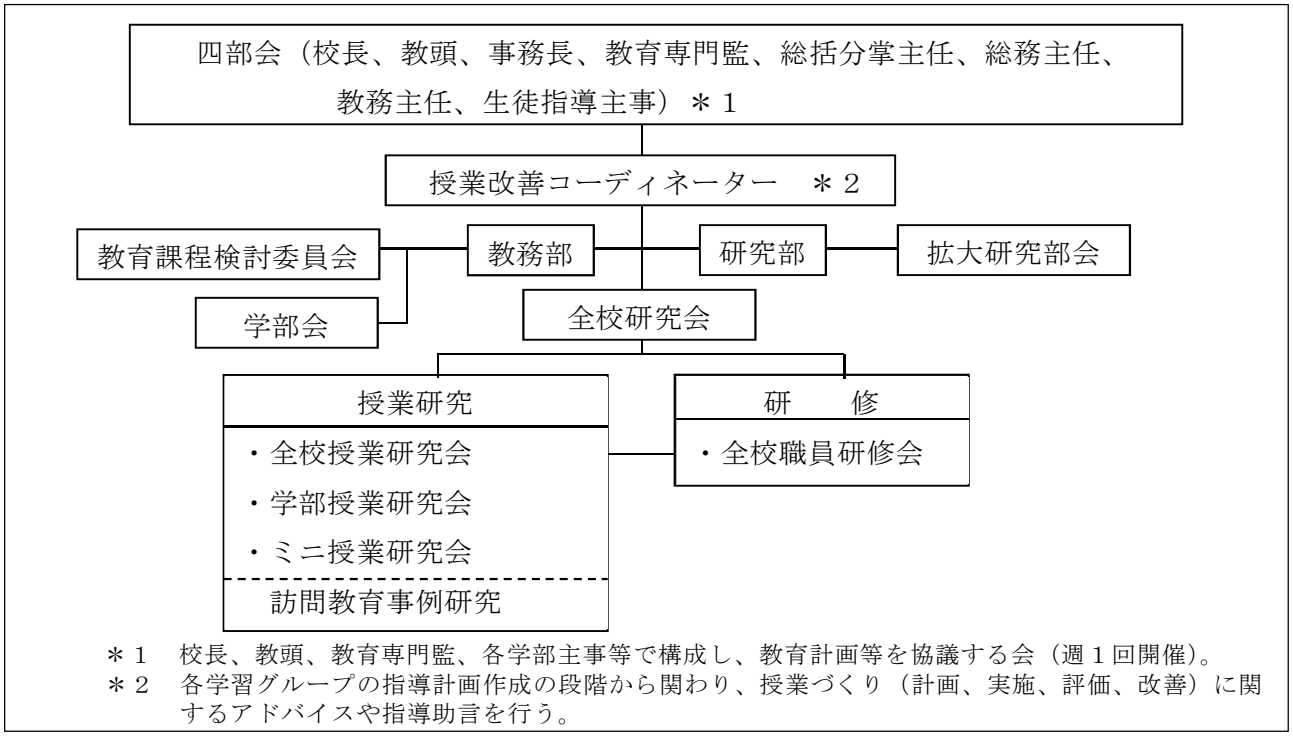


図１　研究組織図

５　取組の実際

（１）授業づくり

①個別の支援計画作成等を通した「育てたい力」の確認と検討

児童生徒の確かな学びや成長に向け、ライフキャリアの視点から児童生徒の今後の育てたい力を明確にすることを目的に、個々の児童生徒について「育てたい力」を担任間で確認、検討した。具体的な取組として、児童生徒の昨年度の担任が作成した「次年度育てたい力」が妥当であるかを４月に担任間で検討し、作成した。その際、各学部の今年度の「キャリア教育の重点」（キャリア全体計画）との関連等に考慮して検討を行い、個別の支援計画の重点目標、個別の指導計画の各指導形態の目標に反映させた

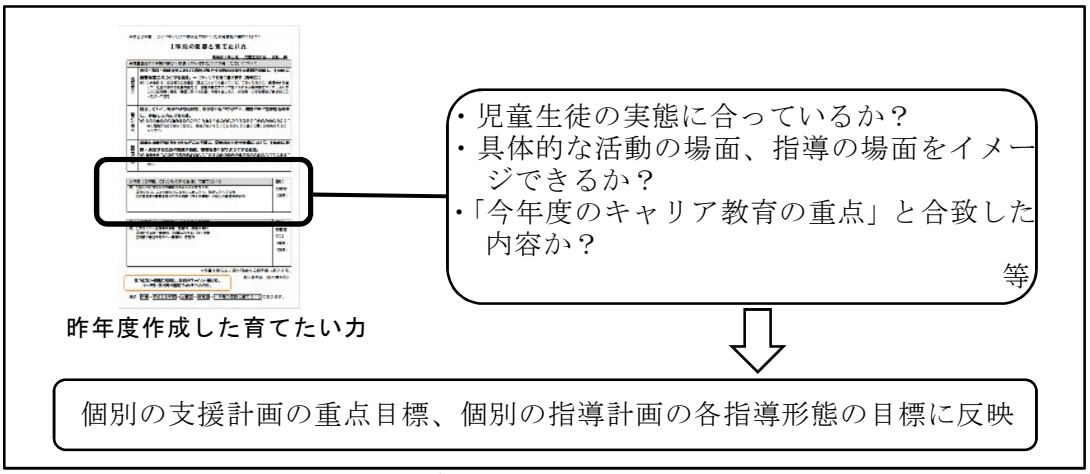


図２　育てたい力の確認と検討

また、担任間で確認・検討を行った「育てたい力」について、各学部の学部会や学部研究会で持ち寄り、学部・学年における育てたい力を協議し、全職員で共有した。

②地域資源の活用、集団や活動場所を広げることを意識した単元計画の作成

授業改善コーディネーターを交えた単元構想会を実施した。学習グループごとに作成した単元構想図や「横手のスタンダード」を基に、地域資源の活用、集団や活動場所を広げることを意識した単元計画の作成を行った。

※単元構想図については、学部の取組に全校授業研究会、学部授業研究会の資料として記載している。

③授業の中で一人一人の児童生徒の「自分らしさを発揮する姿」の具体化と共通理解

全校研究会（４月）において本研究における「自分らしさを発揮する姿」についての捉えを全職員で共通理解した。これを受けて、各学部会及び各学部研究会（５月）において、研究対象となる指導の形態における自分らしさを発揮する姿の検討を行った。これらの協議や各教育資料、日々の実態把握などを基にして、個々の児童生徒における「自分らしさを発揮する姿」を学習グループごとに具体化、明確化し、指導目標に反映させた。

④授業づくりにおいて大事にしたいポイントを共有した授業づくり

「横手のスタンダード」を基に、「主体的な学びにつながる自分らしさを発揮できる授業づくりの視点表」（以下、授業づくりの視点表）を作成した。この視点を全職員で共有しながら、授業づくりを行った。全校授業研究会の際には協議の視点としても活用した。

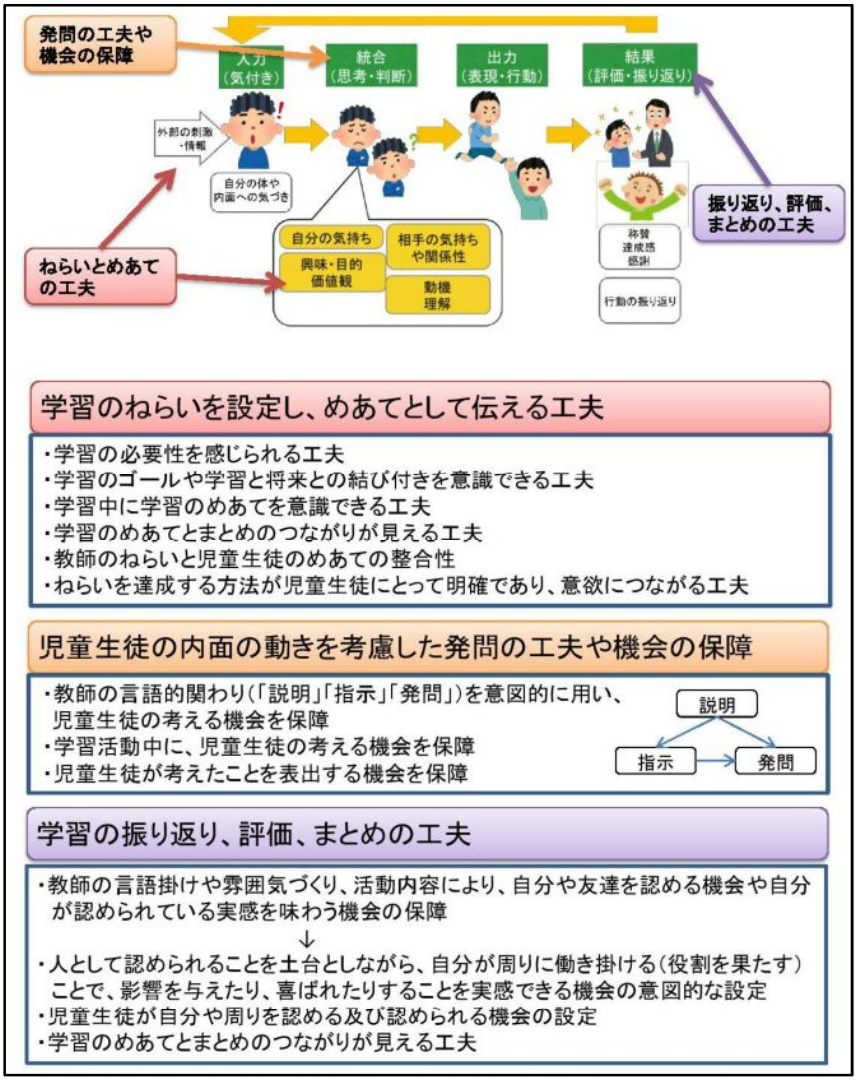


図３　主体的な学びにつながる自分らしさを発揮できる授業づくりの視点表

⑤授業改善の成果と課題の蓄積、全職員による共有

授業づくりにおいては、全学習グループ（小学部４グループ、中学部４グループ、高等部５グループ）が原則として同一単元（題材）で２回の授業研究会を実施し、１回目の授業における改善案や成果を基にして、改善授業としての２回目を行った。全校授業研究会３回、学部授業研究会３回、ミニ授業研究会（改善授業も含む）１２回と計１８回の授業研究会を行った。全校授業研究会、学部授業研究会では付箋紙を用いたワークショップ型の協議を通して、成果と課題が明らかとなり、課題に対する改善案がまとめられた。ミニ授業研究会においては、事前に授業者から意見のほしい事柄や改善したい課題について、授業参観の視点を焦点化した「参観オーダー」を提示することで、短時間で効果的な協議が行えるようにした。

こうした授業改善の実際について、随時、研究部報などで全職員に提示し、共通理解を図った。また、年度末に効果的であった手立てをまとめ、授業改善の成果の蓄積を行った。

表２　授業研究会の実施状況

全校授業研究会			
実施日	グループ	単元（題材）名	協議テーマ
9/7	高等部1年	見つめてみよう家庭の仕事Ⅱ ～家族の一員として～	○授業づくりの視点ごとの成果と課題、改善案
11/30	中学部1年	家庭の仕事を知ろう② ～自分ができる弁当の準備～	①授業づくりの視点ごとの成果と課題、改善案 ②各学部段階における、家庭での生活を題材とした体験的な学習の実践について
12/21	小学部5年	朝の活動・朝の会をしよう ～げんき・えがお・みんなでレッツゴー！～	①授業づくりの視点ごとの成果と課題、改善案 ②日常生活の指導における集団生活の基礎に関する学習内容について
学部授業研究会			
実施日	グループ	単元（題材）名	協議テーマ
9/15	中学部3年	チームワークで準備しよう② ～お茶会のレベルアップ～	○自己表現が苦手な生徒や言葉での自己表現が難しい生徒が、自分の役割が分かって行動するための支援はどのようなものが考えられるか。
9/25	高等部3年	食生活と栄養	○多様な人と考えを伝え合って合意形成を図ったり、自己の考えを深めて表現したりする力（自分らしさを発揮する力）を育む支援について
11/7	小学部1･2年	あさのかつどう、あさのかい	○児童が役割を通して、友達と関わるための手立てはどのようなものが考えられるか。
ミニ授業研究会			
実施日	グループ	単元（題材）名	参観オーダー
7/11	中学部2年	家庭の中の自分の役割①	○活動量の確保と必要な学習内容の選択をどうするか。
9/4	高等部2年	家族がやっていることに挑戦しよう	①やることが分かり、自分から活動に参加できているか。 ②授業の中で行ったことが、生活に還元できる手立てになっているか。
9/4	高等部3年	住まいやくらし方～ごみの処理～	①授業の導入部分について ②めあての提示について
9/13	高等部3年	見つめてみよう家庭の仕事Ⅱ ～家族の一員として～	①付箋紙の利用の仕方 ②めあての提示について
9/15	小学部6年	朝の活動、朝の会	○小6の朝の時間と，中学部の朝の時間の違いはどうか。どうつなぐか
9/19	中学部2年	はじめてみようお洗濯②	①どのような題材（活動内容）を今行うべきか。 ②どのようにして家庭と連携するか。
9/26	中学部3年	チームワークで準備しよう② ～お茶会のレベルアップ	○授業の中でお互いに学び合う姿を引き出すための、効果的な授業の組立や指導の在り方について
10/11	高等部3年	食生活と栄養	○話し合う内容の焦点化と考える時間の確保
11/17	小学部3.4年	朝の活動、朝の会	○相手に向かって役割を果たそうとする姿を引き出すための場面設定について
11/21	小学部1･2年	あさのかつどう、あさのかい	○児童が役割を果たすための教材の工夫、友達に注目するための手立て、参加意欲を高める手立ては有効であったか。
12/12	中学部1年	家庭の仕事を知ろう② ～自分ができる弁当の準備～	○生徒がより達成感を感じたり、今後の意欲を高めたりするための、家庭からのメッセージカードの活用の工夫について
12/13	高等部2年	衣服の選択と補修	①展開について ②まとめの仕方について

（２）職員研修会、情報提供

研修ニーズの把握のために、４月の全校研究会や５月の学部研究会後などの機会に全職員へのアンケート調査を行った。アンケートで得られた結果や授業づくりで共通して挙げられた課題等を基に、職員の研修ニーズを分析し、職員研修会実施時の内容に反映させた。

また、各学習グループの授業づくりの様子、授業研究会での改善案の要点等をまとめ、研究部報を発行し、全職員への情報提供を図った。

表３　職員研修会（授業づくりに関わる内容）の実施状況

実施日	研修内容	研修の目的	講師等
5/31	ＩＣＴの活用	ＩＣＴ活用実践の紹介やグループウェアの演習を通して、教員の知識技能、実践力向上を図る。	本校図書情報部、研究部職員
7/26	手厚い支援を必要としている子どもの授業づくり	手厚い支援を必要としている子どもの自立と社会参加を目指した取組を学び、本校の自立活動の充実を図る。	秋田きらり支援学校 教諭（兼）教育専門監　二階堂　悟　氏
8/31	特別支援学校学習指導要領改訂の要点	新学習指導要領の改訂の趣旨やポイントを学び、教育課程の改善及び充実を図る。	本校教務部職員
9/29	話し合うこと	話し合いの方法や意義について学び、授業の改善及び充実を図る。	本校教頭　阿部　洋一
12/14	ユニバーサルデザインの視点による授業づくり	授業のユニバーサルデザインの理論や実践から、授業づくりのアイデアを得て、日々の授業改善に生かす。	大仙市教育委員会主幹兼指導主事　櫻田　武　氏

Ⅱ　研究のまとめ

1　成果と課題（○成果、●課題）

（1）集団や活動場所を広げることを意識した単元の設定

○本研究において、小学部では日常生活の指導、中学部では職業・家庭科、高等部では家庭科を研究の対象とした。どの学部においても学習した内容を家庭生活の中で活用できるようになること、活動する場所を学校から家庭に広げることを指導の要点と捉えて、単元計画の作成、単元構想を行った。家庭内での様子や身に付けてほしい力、将来の生活像等を本人や保護者から聞き取ったり、学習した内容を実際に家庭で実践する機会を設定したりするなど、保護者と連携を取りながら実施する単元計画の作成が必要であり、こうしたことを意識した単元計画の作成がなされた。また、その保護者との連携の取り方についても授業研究会などで検討された。依頼できることの限界や付けたい力の合意形成等について、効果的に学習内容を家庭に広げていくための手立てや考え方をまとめ、単元計画の設定等に活かすことができた。

●家庭と連携し、学習した内容を家庭で生かすという視点が有効であることが職員間で共通理解された。しかし、児童生徒の実態や家庭の状況が多様であるため、保護者と密接に連携を取りながら効果的に学習を進めるためには、それぞれの家庭に合った連携の取り方が必要になる。このことを考慮し、児童生徒全員の学習機会の保障を意識した単元計画を立てることが必要である。

●小学部６年間、中、高等部３年間の積み重ねを意識した段階的で系統的な指導内容や指導計画の作成が必要である。また、各学部でのつながりのある指導についても意識する必要がある。現在、各学部において研究の対象となった指導の形態について指導内容表の作成を行っている。この作成を通して学部間で系統性のある指導体制を検討していく必要がある。

（2）授業の中での「自分らしさ」を具体化

○全校研究会での「自分らしさを発揮する姿」の捉えを共通理解し、学部研究会等で学部における捉えを検討、共通理解した。授業者間で話し合うという段階的な確認のステップを踏むことで、実際の授業の中で児童生徒同士が関わる、話し合い思考を深める、お互いの頑張りを認め合う等のより具体的な姿を想定することができ、指導目標や活動機会の設定等に効果的に反映させることができた。

●授業の中での具体的な「自分らしさを発揮する姿」や育てたい力について検討が段階的になされたことを成果として挙げたが、「育てたい力」、個別の指導計画等の各様式、普段の実態把握に基づき具体化するというプロセスについては、その流れを整理して示されておらず、分かりにくかったという声があった。これまでの研究の成果である学校教育目標から児童生徒の指導目標に至るまでの流れを具体的に見える形で職員に提示する作業の必要性を感じた。

（3）気付き、考え、判断し、表現するための手立て

○図３の「授業づくりの視点表」を活用した授業づくりや授業研究会を行ったことで、授業づくりにおいて大事にしたいポイントを焦点化して共有することができた。各学部の授業での手立ての工夫や授業研究会で提案された改善案がその授業の改善だけでなく、他の授業にも生かされる等の学部、全校としての実践の積み重ねが見られた。

○図３の「授業づくりの視点表」を基に授業づくりを積み重ねていく中で、学習のねらいの設定や生徒の話合いについて等、共通として課題となる事項が明らかになってきた。この課題を職員研修会に反映させ、職員のニーズに合った内容の研修を実施することができた。

●対象となる指導の形態において、思考・判断・表現を促す授業が展開できたが、他教科等と

関連したそれぞれの学びが、相互に結び付けられた授業づくりをすることが必要である。

（４）児童生徒が自分らしさを発揮する姿（児童生徒の変容）

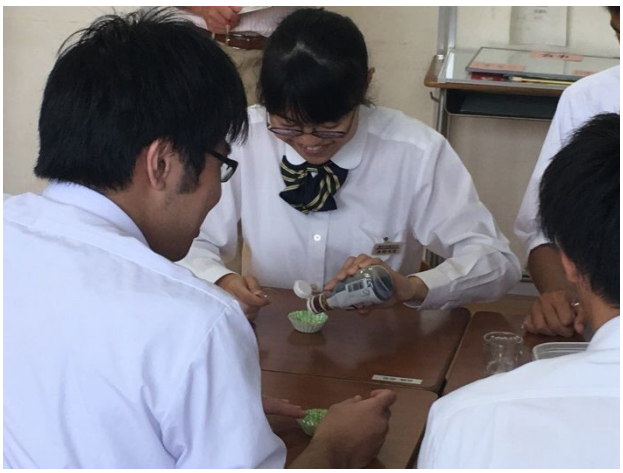
○●各学部において、主題につながる変容が見られた。児童生徒の実態や目指す姿を分析し、それぞれの児童生徒における役割や思考する姿､人と関わる姿などを伸ばす指導が展開された。それぞれの学部における成果と課題についての詳細は各学部の取り組みを参照。

（５）授業づくり

○過年度から取り組んできた「一人一授業」の授業研究が定着し、全校職員がよい授業を目指し、真摯に授業改善に取り組む様子が見られた。「授業研究会→改善授業」の流れを明確にしたことで、手立ての改善、児童の変容を意識した授業づくりを行うことができた。授業研究会への職員の参加率も高くより良い授業がしたいという授業改善への意欲の高さがうかがわれた。

○各学部では、授業改善を日常的なものにするため、「指導略案を活用した週ごとの指導記録」や「単元毎の生徒変容メモの掲示」などの取組を行った。指定された研究授業以外の授業においても、普段から改善についての検討が行われるようになってきた。

●ミニ授業研究会において、改善の視点を焦点化し、短時間で効率的な授業改善が行えるように「参観オーダー」を活用した授業研究会を行った。しかし、オーダー以外の改善点についても、非常に有意義な提案、協議が多かった。これらの意見を生かせる協議の持ち方や時間設定などについて検討し、より短時間で効果的に行うことができ、教師が負担を感じずに気軽に授業改善を行うことができる体制づくりの必要性を感じた。



各学部の実践

Ⅰ　小学部の実践

1　研究テーマ

自分の役割を果たすことを通して、集団の中で他者と関わろうとする児童を育む
～日常生活の指導の実践を通して～

2　テーマ設定の理由

（1）児童の実態

小学部の児童は、身辺自立の面でほぼ自立している児童や教師の指差しや言葉掛け、手順表などを頼りに活動する児童、また、肢体不自由を併せもち、日常生活全般で支援が必要な児童と、実態は多様である。

コミュニケーション面でも、言葉でやりとりをする児童、単語や指差しなどで自分の気持ちや要求を伝える児童、表情や発声で快・不快等を表す児童と様々な実態の児童が在籍している。

朝の活動や係活動については、できる限り一人で取り組むことができるように環境を整え、毎日繰り返し継続して指導することで、教師の支援を受けながら自分のすること（役割）が分かり、徐々に役割を果たすことができるようになってきている。

将来的に集団の中で自分の役割を果たし、そのなかで自分らしさを発揮していくために、周囲の人と関わって活動するということが必要となるが、現在は児童が対教師と、または個々で活動している場面が多く見られる。

（2）今年度の研究

昨年度までの研究では、児童が自分から活動に向かったり、最後まで取り組んだりする姿が見られるようになってきたことが成果として挙げられた。しかし、さらに児童が自分で考えて行動したり、集団の中で思いを伝えたりする機会を設定していく必要があるという課題が挙げられた。

日常生活の指導においては基本的な生活習慣の定着とともにあいさつや言葉遣い、礼儀作法、時間やきまりを守ることなど集団生活を送る上で必要となる力の育成をねらっている。集団生活を送るためには人と関わる力が必要である。学級の係活動や朝の会の進行などで役割を果たすことを通して、人と関わり、協力する力を育てることが集団生活をする上で必要な力につながると考える。そして、これは児童生徒一人一人の自立と社会参加に深く結びつく力である。

そこで日常生活の指導を通して、身近な人からの関わりを受け入れ、関わりながら役割を果たすなど集団生活を送る上で基礎となる力を育てることを目指した授業づくりを行う。授業づくりにおいては個々の児童について他の児童と関わる姿を具体化し、他者と関わりながら役割を果たす機会を設定する。授業改善を繰り返す中で、友達や教師との関わり方の変容や自主的に活動する姿を評価していきたい。日々の授業の中で児童一人一人の変容を丁寧に捉え、集団の中で考えて行動したり、友達と関わって活動したりする経験を増やしていきたい。

基本的生活習慣の確立に向けて、できることを増やしていくということに加え、児童が自分の役割を果たすことを通して、学級等の小集団の中で他者と関わろうとする姿を育んでいきたいと考え、本テーマを設定した。

３　研究仮説

児童が役割を果たす場面を設定し、役割を果たすことを通して他者と関わる、協力する場面を設定し、達成できたことを自分でまたは友達や教師と評価をする日常生活の指導を積み重ねることで、児童が自ら考え、やり方を工夫して役割を果たし、他者と関わろうとする姿を育むことができるだろう。

４　研究の計画

月	日	主な活動
５	２５	学部研究会①（今年度の研究について）
７	６	学部研究会②（研究概要、授業研究の進め方、日常生活の指導の捉えについて）
８	４	単元構想会（６年）
９	１９	ミニ授業研究会（６年）
９	２９	学部研究会③（前期授業づくりの振り返り、後期の研究について）
１０	２３	単元構想会（１・２年）
１０	３１	単元構想会（３・４年）
１１	１	学部研究会④（全校授業研究会に向けての指導方法等についての検討会）
１１	７	学部授業研究会（１・２年）
１１	１５	単元構想会（５年）
１１	１７	ミニ授業研究会（３・４年）
１１	２１	ミニ授業研究会（１・２年）※改善授業
１２	１５	事前授業研究会（５年）
１２	２１	全校授業研究会（５年）
１	３１	学部研究会⑤（今年度のまとめ）

５　研究の実際

（１）小学部の教育課程の確認と検討

①学部会における検討

今年度の教育課程について全職員で協議し、学部の経営方針や努力目標、学部のキャリア教育の重点、週時程等を確認し、共有した。（４／３　、４／５　、４／１２）

②アンケートによる成果と課題の整理

今年度の教育課程について、学期ごとにアンケートによる成果と課題を基に、学部職員で協議し、次学期に向けて改善点を共有した。また、次年度の教育課程についても協議し、確認した。

（６／５、７／１０、８／２３、９／４、１０／１２、１２／８、１／９、２／８）

（２）小学部で育てたい力の検討と共有

①学部、学年・学級で個別の育てたい力の確認と検討

全校の経営方針を受け、（４／１８）、学部会（５／２）において小学部で育てたい力を協議し、確認し合った。それを受け、学年、学級で個々の育てたい力を確認した。

②学部研究会における協議・共通理解

全校研究会（４／１９）を受け、小学部で育てたい力について確認した。また、日常生活の指導において児童が自分らしさを発揮する姿の捉えについて、学年部や近隣学年で協議し、全体で発表し合い、共通理解を図った。（５／２５、７／６）

③系統的な指導についての共通理解

「横手支援の付けたい習慣」を基に作成した「基本的生活習慣形成の到達目標」「学習習慣形成の到達目標」（試案）を教務部が作成したものを基に、児童の生活習慣について身に付けたい力を学部職員で共通理解を行った。

（３）日常生活の指導における授業づくり

①授業研究会　　※授業研究会から得られた授業づくりの要点（抜粋）

【ミニ授業研究会】６年「朝の活動・朝の会」
【自分の役割を果たす】 ・教師の直接的な支援を減らし、児童が自分で活動できるための環境整備や教材の準備を行う。 【集団の中で他者と関わろうとする】 ・相手に注目する態度を育てるために、注目することを目指したゲーム的な活動を朝の会に取り入れる。

【ミニ授業研究会】３・４年「朝の活動、朝の会」
【自分の役割を果たす】 ・活動の中に、活動の順番を選択するなどの児童が考える場面を設定する。 【集団の中で他者と関わろうとする】 ・児童の発言が不明瞭であっても、他児に伝わっていた場合には言い直しを求めない。

【学部授業研究会】１・２年「あさのかつどう、あさのかい」
【自分の役割を果たす】 ・見通しをもって学習に参加することができるように、活動の流れを視覚的に提示する。 ・役割を果たしたことを児童が共有できるように、児童がタブレット端末を操作したときに効果音を流すなどの工夫をする。 【集団の中で他者と関わろうとする】 ・児童が友達に注目したり、児童の参加意欲を高めるために、活動の順番を工夫したり、みんなで復唱する場面を設定したりする。

【全校授業研究会】５年 「朝の活動・朝の会をしよう～げんき・えがお・みんなでレッツゴー！～」
【自分の役割を果たす】 ・肢体不自由の児童が自分の意思でスイッチ教材などを操作できるよう、教材を置く角度などの工夫をする。 ・児童が安定した気持ちで自分の役割を果たすことができるよう、児童の内面の動きを丁寧に受け止め、肯定的な関わり方をする。 【集団の中で他者と関わろうとする】 ・児童の気持ちを分かりやすい言葉で代弁し、児童と児童のやりとりをつなぐ。 ・前に出て発表する児童に他の児童が注目できるように、見えやすいように椅子の位置を工夫したり、教師が「〇〇さんを見るよ」などと言葉掛けをしたりする。

②単元構想会及び指導案検討の実施

ア　ミニ授業研究会、学部授業研究会、全校授業研究会において単元構想会を設定した。単

元構想図や年間指導計画を基に、授業改善ＣＯからの助言を受けながら授業づくりについて話し合いを深めた。題材のねらいや内容、題材計画などについて、目指す方向性を明確にした。

イ　学部授業研究会、全校授業研究会において、授業改善ＣＯや教育専門監、研究主任からの助言を基に、学年で指導案検討を行った。

③週ごとの記録シートを活用した授業作りの評価と反省

これまで本校小学部の合同学習（合同遊び、音楽など）で使用してきた指導記録の形式をもとに、週ごとの記録シート（図１）を作成した。学習グループで一週間ごとに学習改善の内容、児童の変容、思考、判断、表現する姿などを回覧し、短時間で手立てや課題の検討、共有を行った。

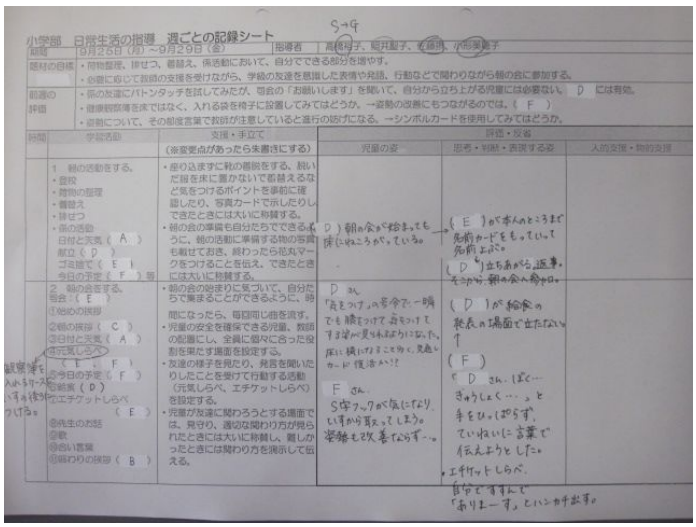


図１　週ごとの記録シート

④年間指導計画の確認及び修正

ア　日常生活の指導内容は、家庭と連携して行うことで効果的なものが多いため、日常生活の指導の年間指導計画に家庭生活との連携の欄を新たに設け、他教科との関連に加え、家庭との連携についても各学級で確認した。

イ　日々の授業づくりでの改善点を生かし、学習内容や目標の見直しを図り、適宜修正を行った。

⑤ビデオ記録による指導方法等についての検討会の実施

学部研究会で、５年生の日常生活の指導の授業において、主に友達を意識する、友達と関わることに関して担任が改善策を探っている場面を撮影したビデオを基に、具体的な場面に対する手立てや改善案を出し合った。

（４）児童の変容の評価

①個別の支援計画、個別の指導計画による評価及び目標の見直し（随時）

②週ごとの記録による児童の変容記録の積み重ね

週ごとの児童の様子を学習グループごとに記録し、職員室に掲示し、共通理解を図った。

③家庭との面談による評価（８月、１・２月の面談）

④連絡帳などでの変容の伝達、共有（随時）

連絡帳や送迎時のやりとりを通して、学校での児童の変容を伝えたり、家庭での児童の変容を聞いたりし、家庭と連携して指導を行った。

６　授業づくりの実際

ミニ授業研究会　　小学部　６年１組　日常生活の指導　「朝の活動・朝の会」

（１）授業の概要

朝の活動では、今できる身辺処理能力を高め一人でできることを増やして生活年齢相応に近付けたい。また、自分で判断しながら取り組み、支援が必要なときに自分から助けを求める姿を育てたい。朝の会では、学級の楽しい雰囲気を感じて安心感をもちながら一日のスタートを切るとともに、学級の一員としての役割を果たす姿を育てたい。

（２）授業実践の様子

①ミニ授業研究会

○授業参観オーダー

小学部６年生の朝の時間と中学部の朝の時間のちがい、接続の仕方について。

○授業者評価

個々の活動が早くできるようになったので、朝の会を５分早めて注目タイムを導入した。児童それぞれが自分から発表したいと訴えたり、笑顔を見せたりするなど興味をもって前の教師を注目している。今後は、その活動を発展させたい。

○授業づくりの視点からの評価

授業づくりの視点	評　　価
ねらい、めあて	・これまでの積み重ねから自主的に取り組む姿などが育っているので、小・低とは違うねらいを立てる。
発問の工夫、機会の保障	・「あと１０分だよ」という促しだけでなく、視覚的な支援が必要。 ・一人でできるところは、どんどん取り組ませる。
振り返り・評価・まとめ	・前に立つ司会の友達や教師に注目する時間が長くなってきたが、返事などの反応が少ない。

②改善授業

○改善した内容

・B 児には、着替えの際に時間を意識できるよう、置き時計を準備した。また、学級全体で異性への意識を身に付けられるよう、ついたてを用意して、必要に応じて使用した。
・『注目タイム』は、「教師のまねをする」などの簡単で楽しい内容を用意して実施した。幼くならないような内容を心掛け、様々なバリエーションを用意した。

○授業者評価

・普段の学校生活においても、男児の指導には男性職員があたるなど性別を意識できるように教師側が心掛けるようになった。
・『注目タイム』で友達と声を合わせる場面や自然に笑みがこぼれる動きなどを取り入れることで、前に立つ教師や友達をしっかり注視・注目し、反応する姿が見られるようになった。

（３）成果と課題

①成果

・普段の生活の中でも、更衣室の利用や生理指導などを通して、男女の違いを意識する姿が見られるようになってきた。
・教師側が先回りしないように、児童の様子からは目を離さず、訴えを待つことを心掛けたところ、着替えの際には自分で姿勢を直しながら衣服を脱いだり、困難なときには自ら「手伝ってほしい」と訴えたりする姿が多く見られるようになった。
・「注目タイム」の内容を工夫・充実したところ、前に立つ人に注目し、返事やまねなどの素早い反応をする姿が多く見られるようになった。

②課題

・返事・言葉遣い、身体の接触など普段から生活年齢を意識した指導を行っていく必要がある。

ミニ授業研究会　　小学部　３・４年１組　日常生活の指導　「朝の活動、朝の会」

（１）授業の概要

朝の活動では、一人でできることを増やし、自分で判断しながら活動を進めていく力を育てる。また、朝の会では、相手に伝わるように呼び掛けたり返事をしたりする姿、会の流れが分かり、相手の動きや会次第に合わせて行動する姿を育てる。

（２）授業実践の様子

①ミニ授業研究会

○授業参観オーダー

相手に向かって役割を果たそうとする姿を引き出すための場面設定について。

○授業者評価

流れを理解し、自分たちで進めたり、分からないことは友達に聞いたりする場面が増えてきた。児童Ａが司会をしている際、話す内容がはっきり聞き取れない場合、もう一度はっきり話すように教師が促すべきか迷うことがあったため、児童Ａや周りの児童の求めたい姿を具体的にする必要があった。

○授業づくりの視点からの評価

授業づくりの視点	評　　価
ねらい、めあて	・「友達に聞こえる大きな声」がどれくらいの声か、周りからどんな反応が返ってくればＯＫなのかを、具体的にしておくとよかった。
発問の工夫、機会の保障	・教師の問い掛けを受けて、児童が考えて答えたり、友達同士で尋ね合ったりする姿を引き出すことができた。
振り返り・評価・まとめ	・教師が即時評価するだけでなく、児童同士でも、伝えたことに対して友達からアクションが返ってくるようになったことで、自分で判断したり、相手に向かって話したりするようになってきた。

②改善授業

○改善した内容

・Ａ児の話した内容が少し不明瞭であっても、体調等を考慮し、場合によっては、それを聞いていた児童が内容に合ったアクションを行った場合は、やり直さずにそのまま進行するようにした。

○授業者評価

・相手の話していることをよく聞いて、礼や返事をすることが多くなった。また、Ａ児も、自分が役割を果たすことに自信をもち、相手に伝わるような早さ、大きさで話そうとすることが増えた。

（３）成果と課題

①成果

・朝の活動や朝の会での自分の役割について、自分で判断して進めることができるようになった。

・一人でできることが多くなり、達成感を感じる機会が増えたことで、Ａ児も早く登校できるようになり、朝の会を２名でそろって行うことができるようになった。

②課題

・学級の児童が２名のため、集団での活動の機会が少ない。今後は、他学年と朝の会を合同で行うなどの集団での活動の場面を設定する必要がある。

学部授業研究会　　小学部　１・２年

日常生活の指導　「あさのかつどう、あさのかい」

（１）単元構想図

◆児童（保護者）の思い・願い
・言葉が増えてほしい。
・人から助けてもらえる、人懐っこい、好かれる人に育ってほしい。

◆教師の願い（育てたい力）個別の支援計画より
・あいさつや返事など、基本的なやりとりができるようになってほしい。
・話を聞くときや物の受け渡しなどのマナーを身に付けてほしい。

本題材の概要
　２年生が昨年度から取り組んできた朝の会の流れや役割を基に、６月から２学年合同で行っている。１年生は上級生の様子を見てまねることが増え、２年生は自分の役割が分かって一人で取り組めるようになってきている。教師が模範となり、基本的なやりとりの仕方や役割活動を丁寧に指導することで、児童がそれぞれの役割を果たし、自分たちで朝の会ができるようにしていきたい。

対象児童	小学部　１・２年	指導の形態	日常生活の指導
題材名	「あさのかつどう・あさのかい」	時数	100 時間

単元計画表

小題材名	学習活動内容	主な目標	時数
あさのかい ～おはなしをきこう～ ＜４～５月、各学年＞	①あいさつ ②日付と天気 ③名前と返事 ④今日の予定 ⑤先生のお話 ⑥合言葉 ⑦手遊び ⑧あいさつ	・朝の会の流れが分かる。 ・着席して、教師の話を聞くことに慣れる。	18
あさのかい ～かかりのしごとを おぼえよう～ ＜６～９月、合同＞	①始めのあいさつ ②朝のあいさつ ③日付と天気 ④名前と返事 ⑤今日の予定 ⑥今日の給食 ⑦先生のお話 ⑧歌・ダンス ⑨終わりのあいさつ	・自分の役割が分かり、教師と一緒に行う。 ・教師の掛け声に合わせて、姿勢を整える。	30
あさのかい ～ともだちのいいところをまねしよう～ ＜１０～１２月、合同＞		・教師や友達の様子をまねて、呼名時の返事や係活動をする。 ・当番の児童や教師の掛け声に合わせて、起立やあいさつをする。	29
あさのかい ～みんなで やってみよう～ ＜１～３月、合同＞		・一人で呼名時のやりとりや係活動をする。 ・友達や教師の様子を見て姿勢を正し、あいさつをしたり、話を聞いたりする。	23

目標達成に向けての主な支援

自分から身の回りのことや係の仕事を行うために
・情報量や動線を考慮し、教材を提示したり、環境を整えたりする。
・持ち物や着替えの場所、係の仕事を固定し、個々に合わせた手立てを工夫する。

友達と関わるために
・児童同士が関わりやすい座席の配置をする。
・友達と関わる場面を繰り返し設定して関わる機会を増やし、その都度正しい方法を知らせる。

（２）授業の概要

朝の活動や朝の会の流れが分かり、教師の指示や手順表がなくても一人でできることが増えてきている。朝の会では、自分の役割を果たすだけでなく、教師や友達に注目したり、声を合わせたりして、参加することをねらった。

（３）授業実践の様子

①学部授業研究会

○授業者評価

動線や空間を整理し、教師が見本となり、即時評価を積み重ねてきたことで、児童が活動に見通しをもって取り組み､話を聞く態度や基本的なやりとりの仕方が身に付いてきている。離席が多い児童への個別の手立てや必要性を感じられるような活動の設定、児童の関わりが広がるような活動の工夫が必要だった。

○授業づくりの視点からの評価

授業づくりの視点	評　　価
ねらい、めあて	・毎日ステップアップしていけるような具体的なねらいを設定する。 ・日常生活の指導はどのような教科を合わせているのか改めて確認する。
発問の工夫、機会の保障	・自分で次の活動や役割に気付くことができるような教材を工夫する。 ・児童が楽しみにして朝の会に参加するような先生の話や手遊びを設定し、児童同士の関わりが増えるようにする。
振り返り・評価・まとめ	・具体的なねらいを設定し、具体的な評価を児童に伝えていく。 ・基本的な習慣について、教師が見本を示し、即時評価することを続ける。

②改善授業

○改善した内容

・児童が役割を果たすための教材の工夫。
・友達に注目する手立てや参加意欲を高めるための手立て。

○授業者評価

・めくりの係の児童が、提示した朝の会の流れと役割分担表を見たり、iPad 操作時の音を楽しみにしたりして、自分からめくりをすることが増えた。
・名前と返事を日付の確認の前に行ったり、今日の給食をみんなで話す場面を設定したりしたことで、注目度や参加意欲が高まった。

（４）成果と課題

①成果

・動線や空間を整理し、手順表など個別の手立てを工夫したことで、持ち物の整理、着替え、係活動など、一人でできることが増えた。
・１・２年生が合同で朝の会を行うことで、１年生は２年生の様子をまねるようになり、２年生は１年生の手本になるよう姿勢に気を付けるようになった。

②課題

・朝の活動の目標や児童に合った自然な関わりの姿をより具体化し、教材の工夫や場面設定をする。
・役割分担を固定し継続して取り組んできたことで、それぞれが一人でできることが増えたので、各分担を交替して関わりを広げていくようにする。

全校授業研究会　　小学部５年

日常生活の指導　「朝の活動・朝の会をしよう～げんき・えがお・みんなでレッツゴー！～」

（１）単元構想図

◆児童（保護者）の思い・願い
・着替えや排せつなど身辺処理において一人でできることを増やしてほしい。
・適切な関わり方を身に付けてほしい。

◆教師の願い（育てたい力）個別の支援計画より
・児童が身のまわりのことにおいて一人でできる部分を増やしたい。
・自分の思いを周りの人に伝え、友達と適切な関わり方で関わってほしい。

本題材の概要
　今年度は特に、友達の様子を見たり、聞いたりして、友達を意識した発表の仕方や活動内容で朝の会を構成している。自分たちでできる部分は大いに称賛し、必要な場面で教師が適切な関わり方を示し、丁寧に指導を積み重ねていくことで、児童同士がより少ない支援で朝の会を行うことができるようにしたい。

対象児童	小学部５年１組	指導の形態	日常生活の指導
題材名	「朝の活動・朝の会をしよう ～げんき・えがお・みんなでレッツゴー！～」	時数	101 時間

単元計画表

小題材名	学習活動内容	主な目標	時数
全単元を通して	【朝の活動】 ①荷物整理 ②着替え（排せつ） ③係活動	・荷物整理、排せつ、着替え、係活動等において、自分でできる部分、できることを増やす。	101
自分の役割を覚えよう（４～５月）	【朝の会】 ①うた ②はじめのあいさつ ③あさのあいさつ ④ひづけとてんき ⑤げんきしらべ ⑥きょうのよてい ⑦きゅうしょく ⑧エチケットしらべ ⑨せんせいのおはなし ⑩あいことば ⑪おわりのあいさつ	・朝の会での自分の役割を覚える。 ・会の始まりに気付き、自分から準備する。	19
自分の役割を果たそう（６月～９月）		・必要に応じて教師の支援を受けながら、会の中で自分の役割を果たす。	30
友達の発表をよく見よう、よく聞こう（１０月～１２月）		・友達を意識して発表したり、友達の話をよく聞いて行動したりする。 ・友達の働き掛けに対して、表情や言葉、行動など児童それぞれの方法で応えて友達と関わろうとする。	29
みんなで会を進めてみよう　（１月～３月）		・司会の児童を中心に、教師の少ない支援で朝の会を行う。	23

目標達成に向けての主な支援

見通しをもって活動できるように
・活動する際の動線や教室内の環境を整える。
・活動内容を視覚化し、児童が自分でチェックできるようにする。

安定した気持ちで活動に向かえるように
・児童からの発信を受け止め、肯定的な態度で関わる。
・個に応じて気持ちを落ち着けるための行動を認める

適切な関わり方を身に付けるために
・場面を捉え、物の渡し方や友達への話し方などの見本を示す。
・友達との適切な関わり方ができたときには大いに称賛する。

友達に注目することができるように
・児童の頑張っている様子をまわりに伝え、称賛する。
・発表の仕方を工夫したり、友達の歌い方をまねて歌う活動を設定したりする。

（２）授業の概要

朝の活動や朝の会で、物の配置や動線を整え、指導を積み重ねてきたことで自分のすることが分かり、自分から進んで活動に取り組む姿が増えてきている。

朝の会では、場面に応じて自分の役割を果たしながら、相手を意識した表情や言葉、行動などで友達と関わって朝の会に参加することをねらって授業を行った。

（３）授業実践の様子

①全校授業研究会

○授業者評価

動線や物の配置を整理し、児童が自分でチェックできるような教材を用いて授業を積み重ねてきたことで、やるべきことが分かり、児童が進んで活動できていた。朝の会で、児童の間に入る教師の数を減らすことで子どもの関わりを引き出すという意見もあったが、安全面を十分に保障しながら教師の言葉掛けや接触を少しずつ減らし、子ども同士の関わりにつなげていきたい。

○授業づくりの視点からの評価

授業づくりの視点	評　　価
ねらい、めあて	・児童がやることが分かり、取り組むための手立ては効果的だった。特に生活年齢を意識した「エチケットしらべ」を各自で行うコーナーを設けたことで自ら進んで確認する姿が増えた。
発問の工夫、機会の保障	・肯定的な言葉掛けを心掛けたことで、児童が安心した気持ちで活動に取り組むことができた。 ・教師の直接的な言葉掛けを減らし、児童が少し考えて行動する場面を設定する必要がある。
振り返り・評価・まとめ	・教師の声が大きく、司会の補助の言葉と称賛が同じトーンで分かりにくい。毎回、同じではなく、称賛の仕方を工夫する必要がある。

②改善授業

○改善した内容

・教師の言葉掛けや接触を減らしていくため、児童の精神的な安定を保ち、教師がよい見本を演じていたぬいぐるみをなくし、児童同士の関わりをねらう。

○授業者評価

・安全面で児童と児童の間に入る教師の数を減らすことは難しいが、生活年齢に合わせて必要な場面のみ教師が演示したり、ポイントを絞った言葉掛けを意識したりすることで、以前よりも児童同士が関わる場面を必然的に生み出すことにつながった。

（４）成果と課題

①成果

・児童の様子と行った手立てについて、評価、改善を積み重ねていったことで、進んでできることが増えた。
・児童の気持ちが安定できるよう配慮したことで、普段と異なる状況であっても朝の会に全員が参加することができた。

②課題

・前に出て発表する児童に他の児童が注目できるようにする手立てを工夫する。
・教師が多く介入せずに、安全で、かつ、児童同士の関わりも目指せるような配置、児童の並び方（机のところで朝の会を行うなど）を工夫していく必要がある。

7　学部研究の成果（○）と課題（●）

（１）児童が自分の役割を果たすことを通して他者と関わる、協力する場面の設定

○スイッチを押すことでダンスの音楽が流れる、友達が復唱することを意識してゆっくりと予定を話すなど、児童同士が役割を果たすことを通して、関わる、協力する場面を意図的に設定した。「手を伸ばせたね」「ゆっくり話して聞きやすかったよ」などと児童と一緒にその場面で即時評価を積み重ねることで、児童と教師の関係から児童同士の関係へと広がりが見られた。また、友達を意識して両手で物を渡したり、自分から他の児童に教えたり、助けたりすることが増えるなど、集団の中で友達と関わろうとする姿が見られるようになった。

○学部で「役割を果たすことを通して友達と関わること」の捉えについて、共通理解を図った。係の仕事を行うことだけでなく、名前を呼ばれたら顔を向けるなどの相手が期待する反応を返すなども役割を果たすことであるという定義をした。その上で、活動の仕方の工夫、座る位置や注目するところまでの距離など細やかな場面設定についてそれぞれの学習グループで検討し、改善していくことで、教師や友達をしっかり注視・注目し、反応する姿が見られるようになった。

●集団として人数が少ない学級もあり、集団活動の機会の確保が課題となった。引き続き、学年合同で学習を計画するなど工夫をしていくことが必要である。

（２）達成できたことについての評価の積み重ね

○週ごとの記録シートを各学習グループで手書きで回覧して記入することにより、負担なく取り組むことができた。授業者全員で記録、回覧することにより、授業者間で授業のねらいや児童の様子、手立てなどについて評価、改善し、共有し、視点を絞った効果的な授業改善を行うことができた。

○児童の変容や効果的だった手立てなどについて評価、改善を積み重ねてきたことで、児童が身の回りのことについて一人でできることが増えたり、一人で朝の会を進行することができるようになったりするなど変容が見られた。また、一人でできることが増えて達成感を感じる機会が増えたことで、自分から立ち上がって発表に向かうなど、自分から進んで役割を果たし、朝の会に意欲的に参加するようになったという変容が見られた。

○児童が達成できたことや友達との好ましい関わり方についてその場面を捉えて即時評価を積み重ねた。そのことにより、自信をもって判断して朝の活動や朝の会を進めるようになったり、言葉で友達にしてほしいことを伝えて適切な関わり方で友達を誘ったりするなど変容が見られた。

●学習グループ別に、週ごとの記録シートを他の学級・学年の様子も知ることができるように職員室に掲示したが、より学部全体で共通理解が深まるよう、情報交換の場面をもっと多く設定する必要がある。

（３）小学部内での目標の系統性、中学部への接続

○単元構想会や授業研究会を行う中で、中学部の現状と小学部の違いを受け、日常生活の指導の朝の活動、朝の会において、児童が小学部段階で身に付けるべき指導内容を吟味していく必要性について再認識した。また、中学部での朝の会の様子を踏まえ、小学部の中でも段階的に会の内容を精選していくなど中学部への接続を意識した系統的な指導が必要であることを共有した。

●単元構想会、授業研究会を積み重ねていく中で、朝の活動、朝の会において、活動内容は同じであっても、その生活年齢、発達年齢によってねらうところは異なり、ねらいを明確にさせて、学部として系統性を意識して指導をしていく必要性を感じた。これからの日常生活の指導に活用できるよう、役割を果たす、関わりに関する段階表を作成し、次年度からの指導に生かしていく。

Ⅱ　中学部の実践

1　研究テーマ

集団の中で自分の役割が分かり、自ら行動しようとする生徒を育む
～職業・家庭科の実践を中心として～

2　テーマ設定の理由

（1）生徒の実態

中学部の生徒は、言語によるやりとりが可能な生徒のほか、簡単な言葉や身振りなどで周囲の人に意思や気持ちを伝える生徒もおり実態は多様である。人と関わることや集団での活動が苦手な生徒もいるが、教師や友達の誘いを受けて一緒に活動したり、生徒同士互いに声を掛け合い協力したりする場面が増えてきている。

昨年度の研究と授業実践から、生徒一人一人の得意な面に注目し、個々に合った役割があることで意欲的に活動に向かったり、互いのよさに気付き、認め合いながら活動したりすることができるようになってきている。さらに、身近な課題や地域における活動は、学習への大きな動機付けとなっており、地域での体験活動を積み重ね、称賛や感謝の言葉をいただくことで、喜びややりがいを感じながら活動に向かい、自信を付けることにつながった。しかし、決まった自分の役割に集中できる力は身に付いてきているが、集団の中で自分がどのような役割を担っているかを考え行動することが難しく、生活に必要な知識・技能が乏しいといった課題もある。

（2）今年度の研究

昨年度の研究では、学習集団の中で役割を果たしながら活動をやり遂げる姿を目指し、学習の場や内容を発展させていく授業づくりを行ったことで、見通しをもって最後まで活動をやり遂げたり、目的意識をもって考え、行動したりするなどの生徒の変容があった。しかし、本校ライフキャリアの視点の「役割を果たす」学習内容が校内に限定されることが多く、家庭生活や地域生活を意識した学習内容を段階的に展開していく必要性が明らかになった。

そこで、今年度は、「職業・家庭科」を新たに教育課程に位置付け、「職業に関する基礎的な知識」、「家庭の役割」、「家庭に関する基礎的な事項」、「情報」、「余暇」を取り扱った授業づくりを行う。

授業づくりにおいては、学校生活、家庭生活、職業（地域）生活に関連した身近な内容を取り上げ、友達から情報を得られる学習の場を工夫し、意図的に設定する。地域資源の活用に関しては、より身近な地域資源である家庭に重点を絞り、様々な生活に必要な知識や経験を積み重ねる。また、めあてとまとめ、展開などのポイントを絞った授業づくりを積み重ねた成果・課題・改善方法を整理するとともに、日常生活の指導や生活単元学習で関連した学習における生徒の変容も合わせて検討・整理する。そして、職業・家庭科の学年ごとの指導計画や指導内容などについても検討・改善を重ね、３年間を見通した大まかな年間指導計画を作成し、教育課程の編成に生かしたいと考え、本テーマを設定した。

3　研究仮説

地域資源の一つである家庭での生活を題材とした体験的な学習を通して、自分の役割や家族の気持ちについて考えたり、自分の行動を認められたりすることを積み重ねることで、生活に必要な知識・技能を習得し、さらに、実生活で身に付けたことを生かせる場面を意図的に設定することで、様々な場面での役割に気付き、自ら行動しようとする生徒を育むことができるだろう。

４　研究の計画

月	日	主な活動
５	２５	学部研究会①（今年度の研究について）
６	２６	単元構想会（２年１組）
７	６	学部研究会②（研究概要、授業研究の進め方、職業・家庭科の指導内容について）
７	１１	ミニ授業研究会（２年１組）
７	１８	改善授業（２年１組）
８	２１	単元構想会（２年２組）
８	２４	単元構想会（３年１組）
９	１５	学部授業研究会（３年１組）
９	１９	ミニ授業研究会（２年２組）
９	２６	ミニ授業研究会（３年１組）※改善授業 改善授業（２年２組）
９	２９	学部研究会③（前期授業づくりの振り返り、後期の研究について）
１０	１１	単元構想会（１年１・２組合同）
１１	１	学部研究会④（学習会：キャリア教育について、全校授業研究会指導案検討会）
１１	１４	事前授業研究会（１年１・２組合同）
１１	３０	全校授業研究会（１年１・２組合同）
１２	１２	ミニ授業研究会（１年１・２組合同）※改善授業
１	１８	学部研究会⑤（今年度のまとめ、指導内容表の検討）

５　研究の実際

（１）中学部の教育課程の確認と検討

①学部会における検討

今年度の教育課程について全職員で協議し、学部の経営方針、努力事項、学部のキャリア教育の重点、週時程等を確認し、共有した。（４/３、４/５）

②アンケートによる成果と課題の整理

今年度の教育課程について、学期ごとにアンケートによる成果と課題を基に全職員で協議し、次学期に向けて改善点を共有した。また、次年度の教育課程の方向性についても協議し、確認した。（６/５、７/１０、８/２３、１０/１２、１２/８、１/９、２/８）

（２）中学部で育てたい力の検討と共有

①学部・学年・個別の育てたい力の確認と検討（学年部または学習グループでの協議及び全体協議）

学部会（５/２）及び学部研究会（５/２５）で、学部・学年・個別の三段階で育てたい力を協議し、ライフキャリアの視点から個々の目指す姿を明確にし、全職員で共有した。

②年間指導計画と地域資源の関連の検討

ア　職業・家庭科の年間指導計画を作成する際に、家庭や日常生活で身に付けさせたい事柄や関連した学習活動（日常生活の指導、生活単元学習、作業学習等）について確認・検討した。

イ　地域資源の活用として、職業・家庭科の家庭分野の学習内容について、学校生活、家庭生活に関連した身近な内容を検討した。

（３）職業・家庭科の授業づくり

①授業研究会　※授業研究会から得られた授業改善の要点（抜粋）

【ミニ授業研究会】 ２年１組　題材名「家庭の中の自分の役割①」
【家庭生活を題材とした学習活動】 ・家庭内での様々な仕事についての知識・理解の程度を実態把握し、授業づくりに生かす。 【役割に気付き、自ら行動する】 ・生徒の家庭での頑張りを動画や写真などで紹介し、生徒間で共有し、相互評価を促す。 ・環境設定や直接的な支援を減らす工夫や生徒の役割分担を行うことで、生徒同士が協同し、学習への参加率が上がる。

【ミニ授業研究会】 ２年２組　題材名「はじめてみようお洗濯②」
【家庭生活を題材とした学習活動】 ・家庭との共通理解が大切である。保護者も必要性を感じ、家庭と学校が共通した方法でできる学習内容、指導方法を検討する。 ・学校での生徒の育ち、変容を日常的に家庭に伝える工夫が必要である。 ・知識・技能の習得は家庭の実際の場面に近い形の学習を設定する。

【学部授業研究会】 ３年１組　題材名「チームワークで準備しよう②～お茶会のレベルアップ～」
【役割に気付き、自ら行動する】 ・「2 人でないとできない」などの生徒同士が関わる必然性のある役割を設定する。 ・生徒の役割を通した関わりについて、実態を踏まえてその具体的なねらいを設定する。 （場の共有の段階、対教師・対生徒、一方通行、双方向、物を介して、集団の中で、教える－教えられる、見本になる－見て覚えるなど）。

【全校授業研究会】 １年１・２組合同　題材名「家庭の仕事を知ろう②～自分ができる弁当の準備～」
【家庭生活を題材とした学習活動】 ・個々の体験と課題を全体で共有できる場面設定を工夫する。 【役割に気付き、自ら行動する】 ・生徒がより達成感を感じたり、家庭で役割を果たしていくための意欲付けとなったりするように、家族からのメッセージカードの活用の仕方を工夫する。 【めあてとまとめの整合性】 ・本時と題材のゴールを明確にし、生徒個々の実感を伴ったまとめ方を工夫する。

②単元構想会及び指導案検討会の実施

ア　ミニ授業研究会、学部授業研究会、全校授業研究会において単元構想会を設定した。単元構想図を基に、授業改善コーディネーターからの助言を受けながら授業づくりについての話合いを深め、題材のねらいや内容、単元計画について目指す方向性をより明確にした。

イ　学部授業研究会、全校授業研究会において、授業改善コーディネーター、教育専門監、研究主任からの助言を基に、指導案検討（学年または学部全職員）を行った。

③職業・家庭で取り上げる指導内容の検討と関連した学習の確認（学年または学習グループ）

ア　学部研究会（７/６）において、職業・家庭科の家庭分野指導内容チェック表（図１）を用いて、学年ごとに指導内容を検討した。

イ　事前に家庭へのアンケートで、題材に関する家庭での生徒の実態や保護者が生徒に望む役割や姿などを聞き取った。

④授業づくり振り返りシートを活用した授業づくりの評価と反省

題材ごとに授業づくり振り返りシートを活用し、次回の題材での授業づくりへ向けて課題を明らかにし、学習グループごとに改善を図った。

⑤年間指導計画の確認及び修正

題材終了ごとに評価をし､授業づくりでの改善点や繰り返しのある発展的な学習内容を見直し、修正した。

⑥学習会の実施（１１月）

進路指導主事によるミニ進路研修会を実施した。「キャリア教育について」や「社会に出てから求められる力」から、中学部段階で育てたい力について考えた。職業・家庭科での取り扱う内容や、日常生活で身に付けておくべき事柄について全職員で方向性を確認した。

（４）生徒の変容の評価

①個別の支援計画、個別の指導計画による評価及び目標の見直し（随時）

②キャリアノートのまとめによる評価（随時、題材ごと）

ア　一時間ごとの学習の積み重ねが見えるワークシートの工夫

イ　題材ごとの確認テストの実施

③日々の記録による生徒の変容記録の積み重ね

題材ごとに、生徒の変容記録用紙を職員室に掲示し、日々の生徒の変容を記入し、共有した。

④本人や家庭との面談による評価（８月、１２月、１・２月）

⑤連絡帳や学年通信等での伝達、共有（随時）

ア　職業・家庭科の授業で学習した内容について、連絡帳や学年通信等で保護者にお知らせし、学習に関する情報を共有した。

イ　連絡帳を通して、学習の様子を伝えたり、学習に関する家庭での様子を聞いたりし、学校と家庭が共通した方法でできる学習内容・支援方法を検討し、連携して進めた。

		職・家	1	2	3	日指	生単	作業
産業現場等における実習	・卒業後の生活への関心							
	・職場の名称、仕事内容の理解							
	・仕事の分担と協力							
	・公共交通機関の利用への関心							
	・自分の能力や適性の理解							
家庭の役割	・家族の立場・役割の理解							
	・仕事の種類や分担							
	・手伝い							
	・身の回りのことを自分で行う							
	・互いが支え合っていること							
	・自分が認められていること							
	・家族の団らんへの参加							
	・乳幼児や高齢者への優しい接し方							
家庭	・清潔な衣服、身だしなみ							

図１　家庭分野指導内容チェック表

6　授業づくりの実際

ミニ授業研究会　　中学部　２年１組　職業・家庭科　「家庭の中の自分の役割①」

（１）授業の概要

家庭内にはたくさんの様々な仕事があることが分かり、少しでも家族の役に立てるようになりたいという気持ちをもち、家庭での自分の仕事を決めてほしいと考え、本単元を設定した。自分が家庭内のどんな仕事を担うことが適当であるのかを考えるために、試しに二つの仕事を一週間実施し、家族から評価してもらった。そうした体験をもとに長期休業中の家庭内の自分の役割を決め、実践につなげた。

（２）授業実践の様子

①ミニ授業研究会

○授業参観オーダー

活動量の確保と題材の目標達成のための学習内容の選定や個々のねらい達成のための学習活動の展開の仕方について

○授業者評価

家庭内の仕事を「衣・食・住・その他」の四つに分類する場面では、生徒たちが自分たちで判断して貼ることができるように、考える時間の確保と、仕事カードの分量の調整が必要であった。仕事の内容を表す言葉と絵のマッチングは難しい生徒がいた。

○授業づくりの視点からの評価

授業づくりの視点	評　　価
ねらい、めあて	授業の中で達成できそうな具体的なねらいが設定できた。
発問の工夫、機会の保障	自分たちで考えて判断して答える課題の設定になっていなかった。
振り返り・評価・まとめ	時間オーバーでまとめの時間が取れなかった。

②改善授業

○改善した内容

①教師の支援を減らし、生徒同士が相談をしながら自分たちで判断して活動を進められるようにした。

②言語による表出が苦手な生徒の活動の様子を家族から写真に撮ってもらい、本人の言葉による説明を補足し、友達に本人の頑張りを視覚的にも分かってもらい、互いの頑張りを認め合えるようにした。

③夏休みに実施する自分の仕事を考えられるように、お試し仕事をしてみた自分の気持ちや、その仕事をしている人の気持ちを考えることができるように、振り返りシートに具体的な気持ち

○授業者評価

仕事分類表を貼る位置やカードを置く机の配置などを変更し、生徒同士で協力し合って表に貼り付けられるようにしたところ、生徒同士が意見を交換しながら仕事カードを分類することができた。

（３）成果と課題

①成果

・生徒が自分で考えたり、友達と相談したりできるように、教材を置く位置と生徒が活動する場所との配置を考慮することが大事であった。

・生徒たちが友達の意見なども参考に、進んで自分の夏休みの仕事を決めるために、お試し仕事の振り返りシートの内容を、記述の他に、気持ちを表現した例文を上げ、選択できるようにすることが有効であった。

②課題

・生活上の衣食住に関する技能等の獲得、向上のために有効な学習活動、その展開の仕方など難しさを感じた。

ミニ授業研究会　　中学部　２年２組　職業・家庭科　「はじめてみようお洗濯②」

（１）授業の概要

１学期は洗濯機での洗濯、また、夏季休業直前に洗濯畳みに取り組み、少しずつ家でのお手伝いにつながっている生徒、以前と変わらず、家での仕事に取り組めていない生徒、と実態に幅がある。本題材では、毎日携行する「ハンカチの手洗い」のやり方を覚え、友達も頑張っている様子を見ることで、日常生活の中で、自分の使った物は自分で洗うという意識をもつことをねらう。また、実際手洗いに挑戦することで、手洗いの仕方、すすぎ方、しわの伸ばし方、ピンチハンガーへの掛け方といった技術面の向上も図り、家庭で取り組む際の自信につなげる。

（２）授業実践の様子

①ミニ授業研究会

○授業参観オーダー

①どのような題材（活動内容）を今行うべきか。
②どのようにして家庭と連携するか。

○授業者評価

「時間をかける＝丁寧でよい」という意識をもち、時間を掛けすぎている生徒について、時間を計り、いつもどおりの速さでやるように言葉掛けをし、幾分自然な速さで活動できるようになった。汚れやしわの有無といったポイントに注目することができなかった。
今回までは、友達の洗い方を見て学んでほしいという思いで、机上で洗っていたが、実際の生活で洗うことを意識して、流しで洗うように変えていく必要を感じた。

○授業づくりの視点からの評価

授業づくりの視点	評　　価
ねらい、めあて	・題材のめあてを毎時間掲示したことで、題材のゴールが分かりやすかった。
発問の工夫、機会の保障	・Step１洗う、Step２絞る、Step３干すとし、黒板に示したことで、生徒にとって手順が分かりやすかった。 ・洗う、絞る、干す、それぞれのポイントが多すぎて、今日の一番のポイントが絞れていない。ポイントが多いことも時間が掛かる要因。
振り返り・評価・まとめ	・ポイントが多すぎることで、生徒が自分で考える際に、絞れない。

②改善授業

○改善した内容

①干す際のポイント「しわを伸ばす」に注目できるように、付箋に生徒が考えたキーワードを書いて黒板で確認した後、付箋をハンガーに移動させて、活動する。
②前回同様洗面器は使用するが、流しで行う。（実際家庭で行いやすい形）

○授業者評価

①ある程度しわを伸ばすことができたが、教室に無意識に干してあったしわ有りの布巾を提示したことで、「しわを伸ばすことを意識しないとしわのまま乾いてしまう」ということを理解することができた。
②実際に流しで洗ったことで、すすぎは流水を使うと時間短縮になると気が付くことができた。

（３）成果と課題

①成果

・実物を見たり、実際に近い形で行ったりすることで、家でもやれそうだと感じ、家で毎日続けられた生徒もいた。（ハンカチ洗い、おしぼり洗い）

②課題

・一部生徒の「もっと上手に（手際よく、汚れを残さず）洗いたい」「すすぎに時間が掛かってしまうことを改善したい」というワンランク上の願いについても、適切なポイントが示せるとよい。
・連絡帳、学年通信を使い、保護者との共通理解を図った。「家庭でもやってみます」「毎日続けています」という反応をした保護者もいたが、全く反応がない保護者もいる。保護者が必要性を感じている内容を取り上げることが大事である。

学部授業研究会　　中学部　第３学年

職業・家庭科　「チームワークで準備しよう②～お茶会のレベルアップ～」

（1）単元構想図

◆生徒（保護者）の思い・願い
・静かな環境で安定した日課を過ごしたい。
・作ったり食べたりすることが好き。
・身体を動かす活動が好き。
・一人で過ごす余暇活動があるとよい。

◆教師の願い（育てたい力）個別の支援計画より
・自分の思いを適切に表現してほしい。
・役割が分かり責任をもって活動してほしい。
・友達や教師への関わりを増やしたい。
・自分から積極的に向かってほしい。

本題材の概要

学級でのお茶会を毎週繰り返しており、この時間を楽しみにしている生徒が多い。２学期は、自分たちで育てた野菜を使いながらの簡易調理（〇〇ポップコーン）や、注文を取りお茶を入れる活動を繰り返し、「作戦会議」を通して自分たちの余暇の過ごし方のレベルアップを図りたい。また、校外学習や家庭生活と関連付けながら、充実した余暇につなげていきたい。

対象生徒	中学部　３年１組	指導の形態	職業・家庭科
題材名	「チームワークで準備しよう②～お茶会のレベルアップ～」	時数	１１時間

単元計画表

小単元名	学習活動内容	主な目標	時数
「オリエンテーション」	・2 学期のお茶会に向けて	・お茶会の目的や、活動計画について知る。	1
「ポップコーンの収穫」	・育てた野菜の収穫と乾燥 ・ポップコーンの計量と袋詰め	・自分の役割が分かり、友達と関わりをもちながら活動をする。	2
「エプロンと三角巾の制作」	・しぼり染め ・アイロンを使った装飾	・手順が分かり、色や形を選びながらエプロンを制作する。	2
「お茶会」	・注文を取ってお茶を入れる。 ・育てた野菜で簡易調理をする。 ・食器等の準備や片付けをする。 ・エプロンなどの選択	・簡易な調理を繰り返しながら、自分でできることを増やす。 ・友達や教師と一緒にリラックスした時間を過ごす。	3
「作戦会議」	・お茶会の振り返り ・次回のお茶会に向けての準備	・自分の思いを言葉や代替手段で表現する。 ・自分の役割が分かり、次回のお茶会に向けて準備をする。	3

目標達成に向けての主な支援

一人一人が活動に向かうために
・役割や目的を明確にする。
・繰り返しの活動を取り入れる。

意欲的に活動に向かうために
・選択する場面を多く取り入れ、興味のある活動を取り入れる。

活動に集中できるように
・１～２人の小グループにする。
・活動中の指示を少なくする。

自分で判断して活動できるように
・視覚的な手掛かりを準備する。
・考える時間を十分にとる。

今日の学びを実感できるように
・感情の言語化やコミュニケーションの代替手段を個に応じて検討する。

活動に見通しをもって活動できるように
・単元計画やレシピなどを提示する。
・作戦会議をもち、次週に向けてアイディアを出せるようにする。

（2）授業の概要

家庭へのアンケートを実施し、将来的にできるようになってほしい家庭での役割や余暇の過ごし方について検討をした。その上で、自分のできる方法や、得意な役割を果たすことを意識して調理を行った。また、他者と共有する大切な時間であることに気付く機会にしたいと考え、団らん場面を大切にするようにした。団らんをよりよくするための話合いを「作戦会議」とし、調理と作戦会議を交互に行いながら、知識・技能の定着と興味関心の拡大を図り、自分の役割を果たす姿を引き出していきたい。

（3）授業実践の様子

①学部授業研究会

○授業者評価

前時では、自分の取り組んでいる役割と、それを示す言葉（例：配膳、盛り付け等）が結び付いていない生徒がいた。このため、本時では活動時の写真と文字カードのマッチングを行った。写真は情報量が多いといった指摘はあったが、体験の中で用いた言葉をよく理解していた。写真や板書と同じワークシートを手元に準備するなど、個に応じた配慮ができた次時の準備では、個に応じた手順表や手掛かりがあったので、自分の役割が分かって活動することができた。

○授業づくりの視点からの評価

授業づくりの視点	評　　価
ねらい、めあて	・前時の振り返りに時間が掛かった。ただ、前時の課題を生徒が意識することで、生徒の声として本時のめあてを設定することができ、教師側のねらいと合致した。
発問の工夫、機会の保障	・教師対生徒のやりとりが多かったため、待ち時間の多い生徒がいた。発問を横に広げる配慮や、自分で考える時間を十分に取れなかったといった点で課題が多かった。
振り返り・評価 ・まとめ	・自分の新しい役割については、できたことを言葉で説明したり、完成品を紹介してもらったりした。言葉での表現が苦手な生徒は、実演をするなどして友達に認めてもらう機会を保障する必要があった。

②改善授業

○改善した内容

①教科として学習目標の設定、②学習の流れ・時間の見える化、③生徒同士のやり取りの場の設定、④ＴＴの役割分担、⑤知識及び技能の習得に向けた学習活動の設定、⑥主体的に考え、判断したり、表現をしたりする工夫、⑦問題を発見、解決を探る態度を引き出す学習展開や工夫

○授業者評価

友達と関わる手段が乏しいことと、関わること自体にメリットをあまり感じていない生徒が多いため、どういった方法で学び合いをしたらよいのかを悩んだ。そこで、ペア活動を取り入れて、一つの役割を二人で協力して行うということにした。ただし、この協力を意識しすぎため、待ち時間が多くなってしまった。

（4）成果と課題

①成果

・アンケートで家庭のニーズや願いを把握することで、家庭と連携した学習活動を展開できた。
・生徒の願いから授業づくりがスタートしており、意欲や期待感をもって活動することができた。
・選択や表現の機会を随時設けることで、自分のできる手段を用いて参加できる場面が増えた。

②課題

・実態の差が大きい集団における、教科としての目標設定が難しかった。
・言葉での表現が難しい生徒同士の関わりや、協力のあり方について検討が必要であった。
・待っている時間でも思考が停止しないような工夫や、活動量を確保することが大切と考える。

全校授業研究会　　中学部　１年
職業・家庭科　「家庭の仕事を知ろう②～自分ができる弁当の準備～」

（1）単元構想図

◆生徒（保護者）の思い・願い
・家の仕事を手伝ったり、自分でできることを増やしたりしたい。
・身の回りのことを一人でできるようになってほしい。

◆教師の願い（育てたい力）個別の支援計画より
・自分の気持ちを適切に表現してほしい。
・約束を守り、落ち着いて活動してほしい。
・日常生活に必要なスキルやマナー（着替え、食事、整理整頓など）を身に付けてほしい。

本題材の概要
　これまでの学習や実践を基に、家庭で自分ができる弁当準備の役割を考えていく。事前に家庭へのアンケートで生徒に望む役割を聞き取り、必要とされることを実践することで家庭での役割を広げたり、家族の役に立つ経験を増やしたりすることをねらう。

対象生徒	中学部１年	指導の形態	職業・家庭科
題材名	「家庭の仕事を知ろう②～自分ができる弁当の準備～」	時数	１０時間

単元計画表

小単元名	学習活動内容	主な目標	時数
１弁当の準備とは	・弁当の準備をしたときの自分や家族の気持ちや、弁当の準備には何があるかを考える。 ・考えた弁当の準備を調理とそれ以外に分ける。	・弁当の準備にはどのようなことがあるか知る。 ・弁当の準備には調理とそれ以外（食器の準備や洗い物など）があることを知る。	1
２弁当の準備をしよう①	家庭で弁当の準備に４回取り組む。 ・自分にできる弁当の準備を考える。 ・弁当の準備で気を付けることや工夫することを考える。 ・自分が取り組んだことを紹介したり、友達の紹介を聞いたりする。 ・友達の取り組みのよかった点や気付いた点を伝え合ったり、家族からのメッセージを聞いたりする。	・自分にできる弁当の準備を考え、実践する。	2
３弁当の準備をしよう②		・前回の取り組みを振り返って、次回準備することを考える。	2
４弁当の準備をしよう③		・前回の取り組みを振り返って、弁当の準備で、できることを増やしたり、工夫したりする。	2
５弁当の準備をしよう④		・自分から弁当の準備をする大切さが分かり、進んで取り組む。	2
６家庭での役割を考えよう	・家庭で役割を果たす大切さを考える。 ・冬休み中に取り組む家庭の役割と時間を決める。	・これから家庭でできる役割を決める。	1

目標達成に向けての主な支援

主体的に自分の役割に取り組むために
・実践を紹介し合う場面を繰り返し設定する。
・家庭での取り組みについて家族からメッセージをもらう機会を積み重ねる。
・実態に応じたワークシートを工夫する。

積み重ねた経験を生かすために
・家庭での実践を互いに共有し、刺激し合う学習グループを構成する。
・家庭と連携をとりながら学習を進める。

自分らしさを発揮するために
・意見交換をして互いを認め合う場面を設定し、自己理解を促す。

（2）授業の概要

自分ができる弁当の準備を３回繰り返す中で、できることが増えたり、友達の取り組みのよさに気付いたりすることができるようになってきた。４回目の弁当の準備に向けて、うまくできなかったことに工夫して取り組もうとしたり、ポイントを意識して取り組んだりすることをねらった。

工夫したり、気を付けるポイントが分かって取り組んだりできるように、友達同士で意見交換して課題解決を探ったり、ポイントとなることを意識して練習したりする活動内容を設定した。

（3）授業実践の様子

①全校授業研究会

○授業者評価

生徒は繰り返しの学習の中で流れが分かって、見通しをもって学習に取り組んでいた。環境の変化や集団での学習が苦手な生徒がいるが、休憩をとりながら最後のまとめで発表する場面に参加することができた。話合い活動でより生徒の発言を引き出せるような教材の提示や言葉掛け、発表者を絞って時間短縮をする工夫などが課題である。

○授業づくりの視点からの評価

授業づくりの視点	評　　価
ねらい、めあて	・めあてを本時のねらいと同じく、より具体的な言葉で提示することで、活動内容やまとめと一致し、見通しをもって学習することにつながったのではないか。
発問の工夫、機会の保障	・取り組んだことを写真やイラストで生徒自身が紹介し、教師が家族からのメッセージを伝えたことで、個々の体験を全体で共有することができ、より達成感を感じることができた。
振り返り・評価・まとめ	・グループごとに発表方法を変え、具体物を用いて実演したことで、お互いの学習の成果を見合うことができた。 ・生徒の発表を受けて、これからの生活の何に役立つのかを具体的に伝えることで、学習がより深まるのではないか。

②改善授業

○改善した内容

より達成感を感じたり、今後、家庭で役割を果たしていくための意欲付けとなったりするように、家族からのメッセージを掲示して活用した。

○授業者評価

・生徒によっては、まとめで家族からのメッセージを活かして発表することができた。今後、家族のために、家庭で役割を果たしていきたいという発言があった。
・メッセージカードの情報量が多かった。大事な箇所にアンダーラインを引いたり、コメントを書いたりすることで、生徒が気付いてまとめることができたのではないか。

（4）成果と課題

①成果

・話合い活動をするグループと家庭で実際に使っている物を用いて実演するグループに分けて学習した。話合いで自分の体験を基にアドバイスをしたり、実演で具体的なポイントが分かったりするなど、個々に応じた課題解決の方法を見付けることができた。
・家族からアンケートやメッセージをもらうなど連携して進めたことで、個々の実態に合った家庭での役割を実践することができ、達成感や自己有用感を高めることができた。

②課題

・生活の中で生きる力を身に付け、自立につなげるために、授業の中で覚えた知識や技能を生徒が考えて工夫していく学習活動をより多く設定する。
・より系統的な指導内容を設定するために、合わせた指導や生活科など小学部段階でどこまでできているのか、実態把握をより詳細にする必要がある。
・生徒が学習の見通しをもち、実感を伴った学びとなるように、めあてとまとめの提示の仕方を工夫する。

7　学部研究の成果（○）と課題（●）

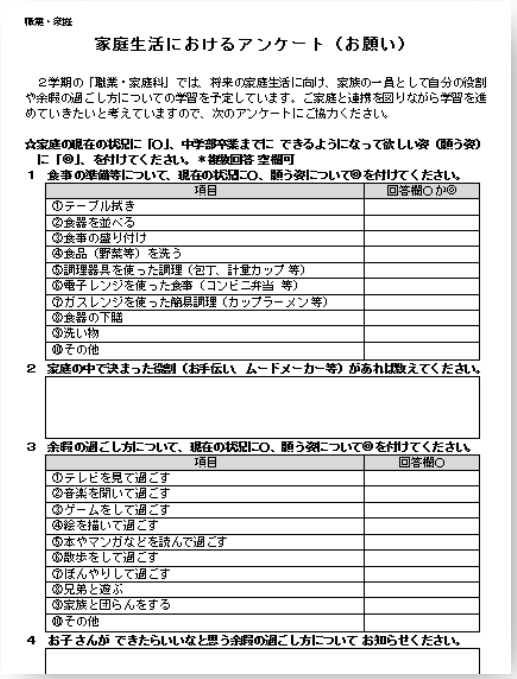
（1）　家庭での生活を題材とした体験的な学習

○家庭での役割として、家族が毎日行っている家庭内の仕事について考える時間を設けた。家庭の中にも様々な仕事があり、家族がそれぞれの役割を担っていることに気付くきっかけとなり、家庭内の仕事に興味をもつ生徒が増えた。さらに、長期休業中には、自分が挑戦する家庭の仕事を選び、手伝いとして取り組んだ。自分ができる家庭内の仕事に気付いたり、家族の一員として自らできることを考えたりして、長期休業終了後も継続して取り組む生徒もいた。

○保護者に対し、必要に応じて「家庭生活におけるアンケート」（図２）や「手伝いについてのアンケート」（図３）などを行った。家庭内の手伝い、集団生活をする上でできるようになってほしいことなどが絞られ、生徒個々の目指す姿をより明確にして授業づくりをすることができ効果的だった。

○職業・家庭科の家庭分野についての指導内容表を作成中である。学年ごとに積み重ねが分かる学習内容になるように、今年度の実践を基に全職員で学習内容とねらいについて検討できた。

●今年度から職業・家庭科を取り入れたが、中学部として家庭分野の段階的な指導内容まで詰めることができず、全学年で似たような題材もあった。来年度に向けて、職業分野に関しても段階的な指導となるように、高等部との系統性を踏まえた指導内容表を作成する必要がある。



職業・家庭

家庭生活におけるアンケート（お願い）

２学期の「職業・家庭科」では、将来の家庭生活に向け、家族の一員として自分の役割や余暇の過ごし方についての学習を予定しています。ご家庭と連携を図りながら学習を進めていきたいと考えていますので、次のアンケートにご協力ください。

☆家庭の現在の状況に「○」、中学部卒業までに できるようになって欲しい姿（願う姿）に「◎」、を付けてください。＊複数回答 空欄可

1　食事の準備等について、現在の状況に○、願う姿について◎を付けてください。

項目	回答欄○か◎
①テーブル拭き	
②食器を並べる	
③食事の盛り付け	
④食品（野菜等）を洗う	
⑤調理器具を使った調理（包丁、計量カップ 等）	
⑥電子レンジを使った食事（コンビニ弁当 等）	
⑦ガスレンジを使った簡易調理（カップラーメン等）	
⑧食器の下膳	
⑨洗い物	
⑩その他	

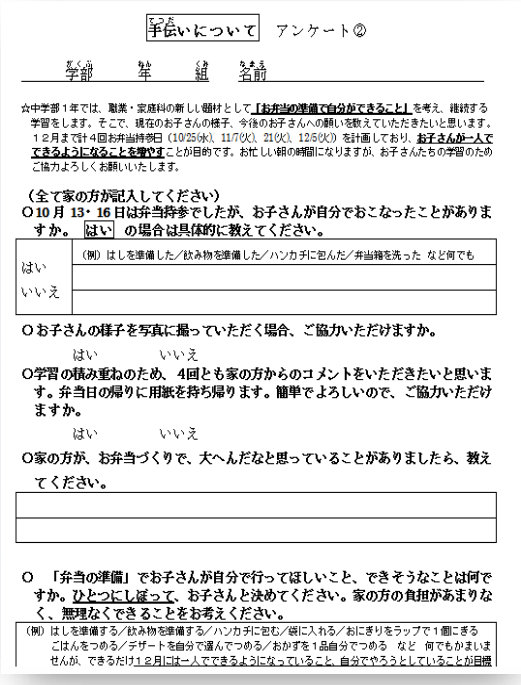
2　家庭の中で決まった役割（お手伝い、ムードメーカー等）があれば教えてください。

3　余暇の過ごし方について、現在の状況に○、願う姿について◎を付けてください。

項目	回答欄○
①テレビを見て過ごす	
②音楽を聞いて過ごす	
③ゲームをして過ごす	
④絵を描いて過ごす	
⑤本やマンガなどを読んで過ごす	
⑥散歩をして過ごす	
⑦ぼんやりして過ごす	
⑧兄弟と遊ぶ	
⑨家族と団らんをする	
⑩その他	

4　お子さんが できたらいいなと思う余暇の過ごし方について お知らせください。

図２　家庭生活におけるアンケート



手伝いについて　アンケート②

学部　年　組　名前

☆中学部１年では、職業・家庭科の新しい題材として「お弁当の準備で自分ができること」を考え、継続する学習をします。そこで、現在のお子さんの様子、今後のお子さんへの願いを教えていただきたいと思います。１２月までに４回お弁当持参日（10/25(水)、11/7(火)、21(火)、12/5(火)）を計画しており、お子さんが一人でできるようになることを増やすことが目的です。お忙しい朝の時間になりますが、お子さんたちの学習のためご協力よろしくお願いいたします。

（全て家の方が記入してください）

○10 月 13・16 日は弁当持参でしたが、お子さんが自分でおこなったことがありますか。　はい　の場合は具体的に教えてください。

はい	（例）はしを準備した／飲み物を準備した／ハンカチに包んだ／弁当箱を洗った など何でも
いいえ	

○お子さんの様子を写真に撮っていただく場合、ご協力いただけますか。

はい　　いいえ

○学習の積み重ねのため、4回とも家の方からのコメントをいただきたいと思います。弁当日の帰りに用紙を持ち帰ります。簡単でよろしいので、ご協力いただけますか。

はい　　いいえ

○家の方が、お弁当づくりで、大へんだなと思っていることがありましたら、教えてください。

○　「弁当の準備」でお子さんが自分で行ってほしいこと、できそうなことは何ですか。ひとつにしぼって、お子さんと決めてください。家の方の負担があまりなく、無理なくできることをお考えください。

（例）はしを準備する／飲み物を準備する／ハンカチに包む／箸に入れる／おにぎりをラップで１個にぎる　ごはんをつめる／デザートを自分で選んでつめる／おかずを１品自分でつめる　など　何でもかまいませんが、できるだけ１２月には一人でできるようになっていること、自分でやろうとしていることが目標

図３　手伝いについてのアンケート

（2）自分の役割や家族の気持ちについて考える場面設定、自分の行動を認められる経験の積み重ね

○家庭での生徒の取り組みについて、家族からのコメント（図４）の協力をいただいた。感謝の言葉や頑張りを認める言葉から、自分が家族の役に立っていることを感じたり、家庭で継続して役割を果たしていくための意欲付けとなったりした。

○洗濯の仕方、衣服の着方、手伝い、団らんなどの内容では、生徒個々の実践を実際に行ったり、友達のよかったところを発表したりする場面設定をしたことで、生徒が互いを認め合いながら同じゴールに向かって学習を進めていくことができた。

●家庭での取組に関しては、言葉のみでの発表では生徒に伝わりにくく、数名は保護者の協力を得て学習の中で写真を提示した。写真撮影の協力や活動の見届けなど、学習に対する家族の理解と協力が必要不可欠である。協力的な家庭がある一方で、全く反応がない家庭もあり課題として挙げられる。家庭の負担にならない程度の学習や協力内容を検討するとともに、生徒の頑張りと変容を継続して家庭に伝えていく必要がある。

月　　日（　　）の弁当の準備で（　　）さんがすることは

です。

家族からのコメントをお願いします。（次回やってほしい準備もあれば）

……
……
……
……

図４　家庭からのコメント用紙

（３）生活に必要な知識・技能の習得

○各学習グループで、繰り返しのある発展的な授業づくりを検討して進めた。さらに、繰り返しの学習の中で学習の積み重ねが見えるワークシートの工夫や確認テストを行ったことで、段階的な知識や技能の習得につながり、生徒自身が学びの実感や生徒の学びを評価することができた。

○授業の中で、互いの考えや意見を出し合ったり、互いの実践の仕方を見せ合ったりする活動を多く取り入れた。様々な考えや仕方があることに気付き、自分の生活に合った実践の仕方を考え工夫するきっかけとなった。

●家庭内での仕事（洗濯、衣服の畳み方など）に関しては、それぞれの家庭でのやり方があり、授業の中では、「基本的なやり方」として生徒に教えることが大事であった。基本を押さえた上で、生徒個々が考え工夫していくことができる学習場面を設定していくことが必要である。

●生徒個々の生活に必要な知識や技能の段階が違うため、一時間ごとの生徒個々の評価規準を明確にして評価し、確実な力となるように学習を積み重ねていく必要がある。

（４）実生活で身に付けたことを生かせる場面設定

○学校生活の中で、学習したことを他の場面でも取り入れたことで自ら実践しようとしたり、自分の役割だと気付いて行動したりする生徒が増えた。家庭生活でも、学習した内容の他に自分のことを自分でする場面が増え、家庭で実践したことを学校で話したり、保護者から連絡帳を通じて情報が届いたりするようになった。

●より確実な知識や技能を習得し、生徒が実際に思考・判断・表現できるように、場面を限定し、細かく区切りながら見届けていくことが必要である。

Ⅲ　高等部の実践

1　研究テーマ

本人が望む家庭生活を目指し、主体的に自己選択・自己決定する生徒を育む
～家庭科の実践を通して～

2　テーマ設定の理由

（1）生徒の実態

高等部生徒の実態は多様で、身辺処理が概ね自力でできる生徒のほか、日常生活全般において支援が必要な生徒が在籍する。また、コミュニケーション面では、言語によるやりとりが可能な生徒のほか、発声や身振り、表情などで意思や気持ちを伝える生徒もいる。

自分の将来や進路に関する知識や経験が不足していることに加え、普段の家庭での役割も未定着な生徒が多いが、就職も含めた将来の地域生活に対して大まかな希望や憧れを抱いている生徒もいる。家庭生活が、学校生活を送る上で大きく影響を及ぼす生徒が多く、自立に向けて重要な課題の一つである。

（2）今年度の研究

昨年度までの実践研究を通して、地域資源を活用する目的を明確にする必要性、キャリアノートにおいて学びを積み重ねる有効性が明らかとなり、ライフキャリアの視点（役割を果たす、自分らしく生きる、自己実現を果たす）での授業づくりの成果が確かなものとなった。事業所での実習や職場見学等、地域での活動は、生徒にとって成就感を得る機会であり、学習に対する大きな動機付けともなっている。しかし、昨年度職業科の授業づくりを進める中で、将来の職業生活及び社会生活を充実したものとするためには、その基盤となる家庭生活の充実が課題として挙げられた。

そこで今年度は、教育課程に家庭科を新たに位置づけ、授業づくりに取り組んでいる。積み重ねた経験を生かしながら自分の「役割」を担い、「自分らしさ」を発揮できるように、家庭生活や家族の役割等に関する学びを般化したい。本人が望む家庭生活につなげられるように、生徒の願いを面談や進路相談で聞き取り、さらに相乗効果を高められるように家庭と連携し、作成した個別の支援計画を活用して、授業づくりに結び付ける。授業づくりにおいては意見交換や互いに認め合う場面を設け、思考・判断・表現を促すことで、主体的に自己選択・自己決定する生徒を育んでいく。

加えて、家庭科の指導計画や指導内容などについて、授業づくりの成果と課題を生かしながら、年間指導計画や他の指導の形態との関連を検討し、改善を行うことで、３年間を見通した指導計画を作成し、教育課程の編成に生かしていきたいと考え、本テーマを設定した。

3　研究仮説

家庭科の授業づくりにおいて、意見交換や互いに認め合う場面を設け、思考・判断・表現を促すことで、家庭生活において自分の役割をより意識し、主体的に自己選択・自己決定し「自分らしさ」を発揮できるだろう。

４　研究の計画

月	日	主な活動
５	２５	学部研究会①（今年度の研究について）
６	２７	単元構想会（１年１Ｇ）
７	６	学部研究会②（研究概要について）
８	２３	単元構想会（２年２Ｇ）
８	２５	単元構想会（３年２Ｇ）
９	４	ミニ授業研究会（２年２Ｇ、３年２Ｇ）
９	７	全校授業研究会（１年１Ｇ）
９	１３	ミニ授業研究会（１年１Ｇ）※改善授業 単元構想会（３年１Ｇ）
９	２５	学部授業研究会（３年１Ｇ）
１０	１１	ミニ授業研究会（３年１Ｇ）※改善授業
１１	１	学部研究会③（授業研究会を通して）
１２	７	単元構想会（２年１Ｇ）
１２	１３	ミニ授業研究会（２年１Ｇ）
１	１８	学部研究会④（今年度のまとめ）

５　研究の実際

（１）教育課程の検討

①学部会における検討

今年度の教育課程について全職員で協議し、学部の経営方針や努力事項、学部のキャリア教育の重点、週時程等を確認し、共有した。（４／３、４／５、４／１２）

②アンケートによる成果と課題の整理

学期ごとにアンケートによる成果と課題を基に、学部全職員で協議し、次学期に向けて改善点を共有した。また、次年度の教育課程の方向性についても協議し、確認した。（６／５、７／１０、８／２３、９／４、１０／１２、１１／１０、１２／８、１／９、２／８）

（２）高等部で育てたい力の検討

①学部・学年・学級で個別の育てたい力の確認と検討

全校の経営方針を受け（４／１８）、学部会（５／２）で育てたい力を確認し、各学年・学級で個々の育てたい力を確認した。

②学部研究会における協議と確認（学年部または学習グループでの協議及び全体協議）

全校研究会（４／１９）を受け、家庭科における自分らしさを発揮する姿の検討と確認を行った。（５／２５、７／６）

（３）家庭科の授業づくり

①授業研究会　（ア:意見交換や話し合う場面設定　イ:思考・判断・表現を促す授業づくり）

※授業研究会から得られた授業改善の要点と研究仮説の関連（抜粋）

【ミニ授業研究会】 ２年１グループ　題材名「衣服の選択と補修」
ア　相手に不快感を与えない服装、マナーを守ることにもつながる。つまり、相手の気持ちを思うことにつながる。 イ　評価の具体性（個々の発表に対して）を高め、生徒同士の評価の機会を設定する。 イ　みんなの意見を取り上げ、まとめ場面へ生かす教材や仕掛けがあり、アクティブな授業であった。発表メモのツールが良かった。

【ミニ授業研究会】 ２年２グループ　題材名「家族がやっていることに挑戦しよう」
イ　家庭によってやり方が違うので、連携して実際の生活に即した環境づくりをする。 イ　自分の目標が分かって、活動できているかが大切である。 イ　今回は教師側が掃除機を準備していたが、一人で掃除機を準備して、掃除をして、片付けるまでの一連の活動が一人でできるところまでもっていく。

【ミニ授業研究会】 ３年２グループ　題材名「住まいやくらし方～ごみの処理」
イ　導入で簡単に袋に入れる活動をしてから、めあてを提示して、もう一度ごみ集めをしてもよかった。 イ　どのタイミングでめあてを提示すれば、生徒がより理解できるのかを考える。

【学部授業研究会】 ３年１グループ　題材名「食生活と栄養」
ア　思考が伝わる板書構成。考える時間を確保すると、話し合いの深まりにつながる。 ア　誰と誰の合意形成を図るのか、生徒同士解決を図るための授業にしたい。 イ　生徒の必要感に迫る内容が、家庭の生活に般化できているか、もっと意識できる。 イ　自分の食生活を振り返ること、置き換えられるまとめができる仕掛けが必要である。 イ　ねらいが妥当か、減塩を考えることは自分が主体だけでなく、家族（調理する人、買う人など）も巻き込んで考えていくことが、生活につながる。

【全校授業研究会】 １年１グループ　題材名「見つめてみよう家庭の仕事Ⅱ～家族の一員として～」
ア　生徒からの発言を話し合いにつなげ、生徒が板書するなど活動量を増やし、生徒の言葉でまとめる。 ア　それぞれの家庭でやり方が異なる。お互いのやり方を見せ合うことで学びが深まる。 イ　話し合いの過程が見えるように、生徒の気持ちや考えの変化を板書や付箋に残す。 イ　何を活動するのかが分かる、活動とつながりのあるめあてを設定する。 イ　生徒が「やってみたい」「考えたい」と思えるめあてを提示する。

②単元構想会及び指導案検討会の実施

ア　ミニ授業研究会、学部授業研究会、全校授業研究会において単元構想会を設定した。単元構想図や年間指導計画を基に、授業改善コーディネーターからの助言を受けながら授業づくりについて話し合いを深めた。題材のねらいや内容、題材計画について目指す方向性を明確にした。

イ　学部授業研究会、全校授業研究会において、授業コーディネーターや教育専門監、研究主任からの助言を受けながら意見交換し、指導案を検討した。

③家庭科で取り上げる指導内容の検討と関連した学習の確認

ア　各学年・学習グループで家庭科の年間指導計画作成に当たり、関連する学習活動や活用できる地域資源の検討を行った。また、家庭科担当で、段階的で系統的な指導内容について検討をした（図１）。

イ　事前に家庭とのやりとりを通して、題材に関する生徒の実態や家庭での取り組み、保護者の願いなどを聞き取り、学習に生かした。また、家庭での実践を学習で取り上げ、再び家庭で試すなど定着を図るようにした（図２）。

図１　家庭科指導内容チェック表

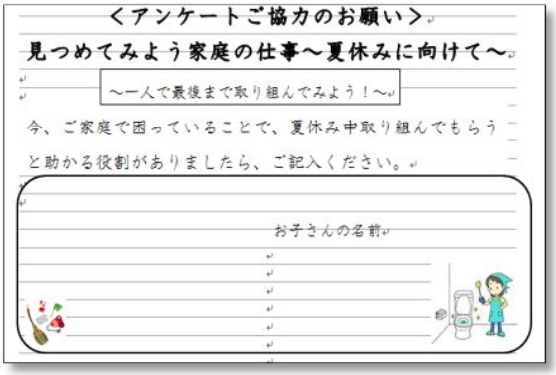


図２　家庭との連携の例（高１－１Ｇ）

④授業振り返りシートを活用した授業づくりの評価と反省

題材ごとに授業づくり振り返りシート（図３）を活用し、学習グループごとに次の題材での授業づくりに向けて課題を明らかにし、改善を図った（図４）。

図３　振り返りシートの集計結果

課題として挙がった振り返り、まとめ方の工夫例

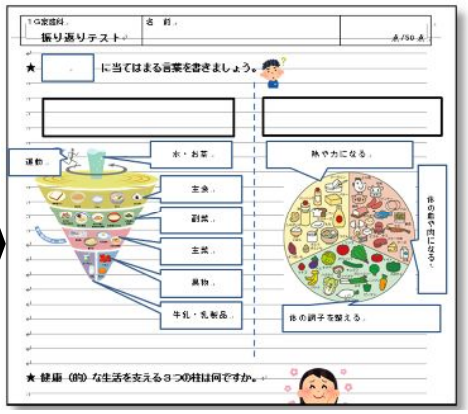


図４　振り返りテスト例（高３－１Ｇ）

⑤年間指導計画の確認及び修正

題材終了ごとに評価し、主体的な自己選択・自己決定が促されているか、目標や指導内容を見直し、修正を図った。

⑥学習会の実施

自立活動について学習会を実施した。事例生徒のグループワークを通して、実態把握での視点のとらえ方について、支援方法の導き方を学習した。

（４）生徒の変容の評価

①日々の記録による生徒の変容評価の積み重ね

②個別の支援計画、個別の指導計画による評価及び目標の見直し（随時）

③１単位時間の学習の振り返りや題材ごとのまとめによる評価（随時、題材ごと）

④本人、家庭との面談による評価（７・８月、１・２月、随時）

⑤連絡帳や学年通信等での伝達（随時）

6　授業づくりの実際

ミニ授業研究会　　高等部　２年１グループ　家庭科　「衣服の選択と補修」

（１）授業の概要

ＴＰＯに合わせた服装を実際に見たり、いくつかの選択肢から選んだりする活動を通して、社会に出たときに自分で適切に選ぶ力を身につける。

（２）授業実践の様子

①ミニ授業研究会

○授業参観オーダー

①生徒同士の学び合い、認め合いを深めるための教師の支援、教材・教具の活用法について
②授業のまとめ方について

○授業者評価

「相手から見た印象」を視点に入れながら、場に合った衣服を選ぶことができた。話形を用意することで、生徒それぞれがポイントを絞り分かりやすく発表することができた。

○授業づくりの視点からの評価

授業づくりの視点	評　　価
ねらい、めあて	・めあてと学習活動を提示することで、本時の流れについて見通しをもつことができたが、具体的なめあての焦点化を図る必要があった。
発問の工夫、機会の保障	・ワークシートに考えを整理して記入する時間を確保したことで、自信をもって発表することができた。
振り返り・評価・まとめ	・発表の場面で他の生徒からも意見や感想を聞くことで、選んだ理由やポイントについて整理したりすぐに評価したりすることができた。

②改善授業

○改善した内容

・チームティーチングの役割分担の再確認　・学習に集中できるための説明、発問の整理
・具体的な場面を想定しやすいテーマの設定　・生徒の発言をより生かしたまとめ方の工夫

○授業者評価

繰り返し取り組んできた学習スタイルに付け加えて、教師の動線や発問、提示の整理、工夫を行ったことで、生徒たちは見通しをもち活発に学習に取り組むことができた。また、前時に比べて詳しく理由付けを行うなど、学習成果の深まりと定着が見られた。

（３）成果と課題

①成果

・より身近に起こりうるテーマを設定したことで、活発に取り組むことができた。
・生徒の発言に対しより具体性に迫った質問をすることで、たくさんのキーワードを生徒たちで出し合い、まとめることができた。

②課題

・授業では学び合いを深めるために、グループワークや話し合いを柔軟に取り入れるなど、生徒の実態に応じた学習スタイルの工夫をする。
・学習内容の定着を図り卒業後の生活へ生かすことができるように、段階的、発展的な学習計画を立てる。

ミニ授業研究会　　高等部　２年２グループ　家庭科　「家族がやっていることに挑戦しよう」

（１）授業の概要

清掃の仕方や家庭生活に必要な道具の使い方についての学習を通して、家族が互いに支え合うことで家庭生活が成り立っていることを理解し、自分の身の回りのことを進んで行う気持ちや態度や力を育てる。

（２）授業実践の様子

①ミニ授業研究会

○授業参観オーダー

①やることが分かり、自分から活動に参加できているか。
②授業の中で行ったことが、生活に還元できる手立てになっているか。

○授業者評価

・掃除機の使い方に興味をもって積極的に行う生徒もいた。
・タブレットを使って発表したが、生徒の前で実際にやってみせるほうが良かった。
・繰り返し学習する中で、正確性が求められていけば良い。

○授業づくりの視点からの評価

授業づくりの視点	評　　価
ねらい、めあて	・ポイントを表にして提示したことで、生徒は意識して活動できたが、「なぜ」というところまで理解できていなかった。
発問の工夫、機会の保障	・活動の時間が短かった。
振り返り・評価・まとめ	・活動の様子をタブレットで確認したが、実際の様子を生徒の前で見せた方がよかった。

②改善授業

○改善した内容

・生徒にポイントを伝え、自分の目標を意識して活動できる授業にする。
・家庭と連携して実際の生活に即した環境づくりをする。

○授業者評価

・生徒の活動（準備も含む）を増やし、生徒同士が活動を見合ったり、良いところを認め合えたりするようにした。ポイントを意識させ、生徒の良いところを認め合える言葉掛けを行った。その結果、最後のまとめの時間では友達の活動を見ての意見がたくさん出た。
・まとめは映像ではなく、友達に演示することで緊張感をもって取り組めた。

（３）成果と課題

①成果

・アンケートをとって家庭との連携を図ることで、各家庭のニーズを把握し、実際の生活に即したより実践的な活動ができた。
・活動ポイントを精選し、表に提示したり順番に確認したりすることで、生徒が出来映えやねらいを意識して取り組むことができた。

②課題

・スキルの定着を図り、家庭での生活に還元するための活動場面を多く設定する。時期をみて学習内容を確認する機会を設けるなど、継続して取り組むための工夫が必要である。
・生徒同士が活動を見合い、良いところを認め合えるような時間や活動内容の工夫が必要。

ミニ授業研究会　　高等部　３年２グループ　家庭科　「住まいやくらし方　～ごみの処理～」

（１）授業の概要

ごみだらけの部屋を体験し、実際にそのごみを処理することで、部屋がきれいになった気持ちよさを味わうと共に、普段の生活で自分が行っているごみの処理の仕方について振り返り、今後の学習に意欲や課題をもって取り組むことができるようにする。

（２）授業実践の様子

①ミニ授業研究会

○授業参観オーダー

①授業の導入部分について
②めあての提示について

○授業者評価

めあてや題材名等を提示せず、導入でごみ部屋を提示したことは、生徒の意欲を高めるために有効ではあった。しかし、１回目の授業なので、生徒がこれから何を学習していくか理解するために、めあてや題材名等を提示する必要があったと感じる。

○授業づくりの視点からの評価

授業づくりの視点	評　　価
ねらい、めあて	・めあて等を提示せずにごみだらけの部屋を提示したことで、意欲的に学習に取り組めた。しかし、まとめでは、ごみを片付けた達成感で占められていた生徒が多かった。
発問の工夫、機会の保障	・ごみの処理方法に難易度を設定し、教師は活動を見守る立場をとったことで、友達同士で相談したり、役割を決めたりして取り組む様子が見られた。
振り返り・評価・まとめ	・iPad を用いて評価したことで、友達のごみの処理の仕方についても振り返ることができた。生徒の中には友達との処理の仕方の違いに気付き、今後の学習へ意欲や課題をもつことができた。 ・一人一人の活動の様子を紹介し、できたことを評価する時間を設定する必要があった。

②改善授業

○改善した内容

・生徒の意見や頑張りたいこと聞き出し、本時のめあてを決める。

○授業者評価

・めあてを生徒の意見や頑張りたいことを基にし、一人一人設定したことで、そのめあてを達成しようと意欲的に取り組む生徒が多かった。

（３）成果と課題

①成果

・生徒の頑張りたいことを引き出し、めあてへつなげることで、意欲的に取り組むことができた。また、生徒同士がお互いの頑張りを認め合えるまとめにつながった。
・題材の最初と最後に同じ活動（ごみ部屋のごみを処理する）を設定したことで、取組の様子を比較でき、客観的、視覚的に題材の評価ができた。

②課題

・一人一人行う振り返りの仕方や学習活動の設定に工夫が必要だった。
・継続して実践していくために、家庭でのやり方とすりあわせるなど、定着に向け、家庭と連携し、協力していく必要性を感じた。

学部授業研究会　　高等部　３年１グループ　家庭科　「食生活と栄養」

（１）単元構想図

◆生徒（保護者）の思い，願い
・自分で料理ができるようになりたい。
・自分のことは自分でできるようになってほしい。

◆教師の願い（育てたい力）個別の支援計画より
・自分でできることを増やしてほしい。
・働く大人になるために、健康的な食習慣を身に付けてほしい。

本題材の概要
　この題材において、夏休み前に学習したバランスのよい食事をさらに発展させ、健康によい食習慣について考える。本題材では、「減塩」について調べたり、献立を考えたりする活動を通して、生涯を通して健康で豊かな生活を送るためのよい食習慣について考え、自分の食生活を改善しよう（改善していこう）とする気持ちを育てる。

対象生徒	高等部３年１グループ	指導の形態	家庭科
題材名	「食生活と栄養」	時数	８時間

単元計画表

小題材名	学習活動内容	主な目標	時数
食生活の課題を見付けよう	・自分の食生活を振り返り、食生活の課題を見付けたり、「生活習慣病」について調べ、健康的な食事について考えたりする。	・自分の食生活を振り返り、課題を見付ける。 ・健康によい食習慣について考える。	2
減塩メニューを考えよう	・減塩について調べ、「豚肉のしょうが焼き減塩バージョン」のレシピを考える。	・減塩について知る。 ・前回のレシピを見直し、減塩バージョンのレシピを考える。	2
調理をしよう	・考えた減塩レシピの調理をする。	・安全や衛生に気を付けて、調理する。 ・味の違いについて考える。	3
家庭で実践しよう	・学習したことを生かして家庭でも実践できるように、調理計画を立てる。	・家庭で調理する場合の調理計画を立てて、実践しようとする。	1

目標達成に向けての主な支援

知識の定着やレベルアップを図るために
・個々の願う将来の生活を聞き取る。
・導入時に、前の学習を振り返るテストを行う。

見通しをもって活動できるように
・題材のスケジュールを提示する。
・板書を整理する。

一人一人が活動に向かうために
・題材のゴールや１単位時間のゴールを提示する。

主体的に話し合い活動に参加できるように
・指示のあとに考える時間を設けたり、意見交換の場を設定したりする。

（２）授業の概要

これまでの調理経験から自分たちで献立を考えることはできるが、これからの生活を健康に送っていくための「健康によい食事」という観点から献立を立てることは難しい。健康的な生活を支える３つの柱の一つに食事があることを知り、より健康的な食生活を送るためにはどうしたらよいのかについて考えることをねらった。さらに、食塩のよさや摂り過ぎによる健康被害について知り、得た知識を基に献立を考え調理実習を行うことで、家庭での実践や将来の力につなげていきたい。

（３）授業実践の様子

①学部授業研究会

○授業者評価

・導入でこれまでの学習の振り返りテストを行ったが時間が掛かってしまったため、話し合いやまとめの時間を十分に確保できなかった。
・体験的な活動を取り入れることで、主体的に学習する姿が見られた。しかし、学習内容が多く話し合い活動の時間が短くなり、内容を理解して自分の考えを深めるまでには至らなかった。

○授業づくりの視点からの評価

授業づくりの視点	評　　価
ねらい、めあて	・学習計画表を提示し、本時の内容を自分で確認できるようにした。また、本時のめあてを一緒に考え、授業のゴールを提示することで見通しをもって学習に向かうことができた。
発問の工夫、機会の保障	・学習シートを準備したが、書き込む時間を確保できなかった。発問を最小限にすることで、生徒たち自身で考える様子が見られた。
振り返り・評価・まとめ	・生徒の発言をとらえ、即時評価をすることで、意欲的に学習に取り組む姿が見られた。授業の初めにゴールを提示していたので、そこに向かってまとめを考えることができた。

②改善授業

○改善した内容

・話合いやまとめの時間を確保するために、導入を簡略化する。
・話合いを深めるために、話し合う内容を焦点化し、考える時間を確保する。

○授業者評価

・導入の振り返りテストを口頭での確認のみにした。解答を考える中で生徒同士が考え合う様子が見られたので時間を掛けた。
・自分の考えをプリントに記入してから話し合うようにしたことで、自分の意見を出したり、意見を求めたりする様子が見られた。

（４）成果と課題

①成果

・導入で確認する時間を確保したことで「食事バランスガイド」「３色食品群」「健康的な生活を支える３つの柱」等家庭科の知識を身に付けることができた。
・自分たちで買い物、調理、食事をすることで、家庭での調理の意欲につながった。
・自分たちで作ったレシピをコンクールに応募することで達成感を得ることができた。

②課題

・生徒に話合いを任せる。授業のまとめが正解になるような展開の仕方を工夫する。
・家族の生活につなげられるように、家庭の協力を得る。

全校授業研究会　高等部１年１グループ
家庭科　「見つめてみよう家庭の仕事Ⅱ～家族の一員として～」

（１）単元構想図

◆生徒（保護者）の思い・願い
・家族から喜んでもらいたい。
・家庭の仕事の幅を広げ、できることを増やしたい。

◆教師の願い（育てたい力）個別の支援計画より
・自分の役割に責任をもってほしい。
・一人でできることを増やしてほしい。
・家庭科の学習に見通しをもってほしい。

本題材の概要
　これまで中学校や中学部での学習や実践を基に、家庭を機能させるためには家族一人一人が役割を果たしていることや、自分もその一員として継続して役割を果たす必要があること知り、自分で考えて、より良い家庭生活をしていくことを目指し、今後の家庭科学習への興味や意欲の高まりをねらう。

対象生徒	高等部１年１グループ	指導の形態	家庭科
題材名	「見つめてみよう家庭の仕事Ⅱ～家族の一員として～」	時数	７時間

単元計画表

小題材名	学習活動内容	主な目標	時数
家庭での役割	・家族の家庭での役割を確認する。 ・手伝いと役割の違いを考える。	・手伝いと役割の違いを知る。	1
夏休み前チャレンジ	・夏休みに取り組む役割と仕事内容を考える。 家庭で２日間取り組む。 ・取り組みを振り返り、役割を果たすために必要なことを考える。	・役割を果たすために必要なことを知る。	3
夏休みにむけて	・再度夏休みの役割と仕事内容を考える。 ・仕事をするときに具体的に気をつけることを挙げ、発表する。 ・１日の生活表を計画する。	・自分の役割に見通しをもつ。	3
夏休み中、各家庭で取り組む			
家族の一員として	・夏休みの実践について発表する。 ・夏休みの実践を振り返り、課題について話し合う。 ・役割を果たし続けるために必要なことをまとめる。 ・今後取り組みたい家庭の役割や、そのために学びたい家庭科の学習内容をまとめる。	・家庭で役割を果たし続けるために、必要なことが分かる。	5

目標達成に向けての主な支援

主体的に自分の役割に取り組むために
・実践を紹介し合う場面を設定する。
・家族からメッセージをもらう機会を積み重ねる。
・ワークシートにまとめる学習活動を設定する。

積み重ねた経験を生かすために
・家庭での実践を互いに共有し、刺激し合う学習グループを構成する。
・家庭と連携をとり学習を進める。

自分らしさを発揮するために
・意見交換をして互いを認め合う場面を設定し、自己理解を促す。

（２）授業の概要

３人とも家庭科の学習や家庭の仕事には意欲的には取り組んでいるが、役割を継続させる力の弱さや家庭の仕事への知識の少なさが見られた。今後家庭で役割を果たすために、自分たちの実践を基にした話合い活動を通して、必要な力を見つけていくことをねらった。

また、題材を学習することで、将来家庭の一員として生活していくために、役割の必要性や今後３年間取り組む学習への意欲の高まりにもつなげていきたい。

（３）授業実践の様子

①全校授業研究会

○授業者評価

繰り返し取り組んできた学習のスタイルのため、生徒たちは学習の進め方に見通しがもてており、普段どおりに取り組むことができ、３人とも文章をまとめることがスムーズにできた。

話合い活動に関しては、何度か取り組んでいるので基本的なルールは理解しているが、生徒だけで話を進めて話を深めたり、焦点化していってまとめたりすることは難しく、教師が仲立ちをする場面が多かった。

○授業づくりの視点からの評価

授業づくりの視点	評　　価
ねらい、めあて	・学習計画表をもとに学習活動を確認し、本時のめあてとまとめを提示することで、本時のゴールへの見通しをもつことができた。
発問の工夫、機会の保障	・学習シートに自分の考えを書き入れることで、個々の思考をまとめることができ、それをもとに、話し合いでは自分の意見を発表することができた。
振り返り・評価・まとめ	・話合い活動での生徒のメモや発言、実践を直接評価したことで、意欲的に学習に取り組むことができた。

②改善授業

○改善した内容

・生徒たちが話合いをするときに、思考を深めたり焦点化したりする手段として付箋紙を用いた。話合いの中から出た生徒の発言を取り上げ、キーワードを書いて提示した。

○授業者評価

・付箋紙を用いることで、生徒の視線がそこに向き、考えが深まったり話し合いが焦点化したりして、話合いが前時より活発に行われた。
・まとめの文章を作成するときに、生徒は教材や教師の発言を基にして文章を作る。教材で用いる言葉や教師の発言を精選する必要がある。

（４）成果と課題

①成果

・自分の実践や家族からのメッセージを基にした話合い活動をすることで、経験を基にして考え自分の意見をまとめるなど、今後に必要な知識を得ることができた。また、生徒自身が家庭で役割を果たすために必要な力を考えることができた。
・家庭と連携を取ることで、経験を積み重ね達成感や自己有用感をもつことができた。

②課題

・卒業時の姿を明確にし、その姿に近づくためには、生徒の実態に応じた学習内容を設定し、計画的に指導していく必要がある。
・生徒がやることが分かり、意欲を高める言葉を用いためあてを提示する。
・話合いや対話的な学習活動を進めていくためには、ルール作りも含め、他教科や領域と関連を図り、様々な学習場面で展開していく必要がある。

7　学部研究の成果（○）と課題（●）

（1）本人が望む家庭生活につなげるために

○今年度から家庭科を教育課程に位置付け、授業づくりに取り組んだことで、家庭の役割や家庭生活での過ごし方について学習を深めることができた。個別の支援計画や個別の指導計画を基に具体的な話を聞き取り、家族を巻き込んだ役割の実践に結び付ける姿が多く見られた。

○家庭での必要感に合わせた学習内容を検討した。本人への聞き取りや保護者アンケートを基に、学校と家庭で将来身に付けたい力、育てたい力の方向性を共有した。例えば、家庭で扱う器具や使い方など細かい部分を確認したことで、「日曜日に一人で進められました」など家庭での役割を認める場面が多く報告された。また、休日や長期休業を利用し、協力を依頼したことで実践力が身に付いていると実感できている。

●将来の家庭生活の充実のために学校だけでなく、生活全般で自分らしさを発揮する姿の検討が必要である。そのためにも、生徒主体の個別の支援計画や個別の指導計画が、積極的に関係機関や日々の授業に生かされるような様式の検討が求められる。

（2）思考・判断・表現を促す授業づくりを求めて

○生徒が話し合いながら協働で学習したり、考えや気持ちを伝え、意見を合わせたりする学習を設定した。そのためには、学習のめあてが明確で生徒が主体的に動くことができる授業づくりが求められる。授業改善ではめあての提示について多く協議がなされ、確かな授業づくりに必要な視点であることが分かった。また、ねらいに近づけるために、課題解決に向かう思考を手助けするために出た意見を付箋で示し思考の流れを明らかにする、話合いを深めるために核心に迫る発問を工夫するなど、授業技術の向上も見られるようになった。

○学習の成果を的確にとらえ、教師が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学びを振り返り、次の学習に向かうための学習評価を行ったことで、主体的な自己選択・自己決定する場面が多く見られるようになった。ビデオや写真を使った振り返り場面を設定したり、生徒の考えを総合的に捉え、全体のまとめの意見としたりしたことで、自己理解や他者理解が深まったと感じられる。

●グループワークや話合い場面では、教師が仲立ちをし、進めるなど柔軟な対応や話合いの仕方を身に付ける工夫が必要である。国語や生活単元学習等他の学習においても日常的に対話し、課題を解決できる習慣を意識して設定することで、意見交換がより深められると考える。

（3）よりよい教育課程の編成を目指して

○体験的な学習内容を取り入れた授業では、生徒の主体的な姿が多く見られた。生徒の五感を刺激し、動きのある授業は、生徒の意欲を引き出し、積極的な発言や気付きが多く見られた。単元構想会では、内容や計画、授業構成について、生徒がイメージしやすい身近な題材や地域資源を取り入れることを意識した助言や意見交換がなされた。その結果、どのような導入や展開の仕方が生徒の主体的な姿を引き出せるか、授業づくりの工夫につながった。

●家庭科の授業づくりを進めるに当たり、各学年の担当間で学習内容について話し合った。積み重ねた学習履歴が見えにくいため、手探りで進めていることが悩みとして挙げられた。そのため、３年間を見通した指導内容や指導計画は、継続して段階的、発展的な学習計画を立てることを目指し、検討中である。その際、各学年の時数の見直しも求められる。

●生徒の学びが生活全般で生かされるためには、領域や教科の関連付けが大切である。例えば、年間指導計画作成時、家庭科の指導内容が他の教科・領域と横断的に結び付き、学んだことを効果的に生かす必要がある。生徒が積み重ねた経験をいろいろな場面で発揮できることが、より豊かな卒業後の生活に結び付けることができると考える。

参考資料

小学部

役割を果たす、関わりに関する段階表（案）
（朝の活動・朝の会において）

指導事項	1	2	3	4	5
あいさつ・返事	・近づいてきた相手に対して目線を合わせたり、手を伸ばしたりする。 ・声のする方に顔を向けて、口を開けたり、笑顔を見せたりする。	・名前を呼ばれた時等に相手を見て、教師や友達の差し伸べられた手に触れるなどして応じる。 ・名前を呼ばれたり、あいさつされたりしたことが分かり、声を出して答える。	・名前を呼ばれたり、あいさつされたりしたら、タイミング良く返答する。	・自分から進んで、あいさつや返事をする。 ・相手の方を向き、相手に聞こえる適切な声量で話す。	・時や場所を踏まえて、自分から進んで挨拶や返事をする。
きまり・姿勢	・話し手に視線や顔を向けて、落ち着いて会に参加する。	・教師の促しを受けて、姿勢を正したり、お辞儀をしたりする。	・教師や友達の様子を見て姿勢を正したり、お辞儀をしたりする。	・会の始まりが分かり、姿勢を正したり、お辞儀をしたりする。	・友達に正しい姿勢での座り方などを伝えるなどして、一緒に姿勢を正したり、お辞儀をしたりする。
参加（聞き手）	・教師と一緒に落ち着いて、機嫌良く活動に参加する。	・教師の促しを受け、話し手に注目しながら、朝の会に参加する。 ・会が行われていることが分かり、興味をもって参加する。	・前で話す教師に注目しながら返事や簡単なやりとりをする。 ・会次第などを手掛かりにして、会の流れに見通しをもつ。	・前で話す友達の話をよく聞き、反応しながら朝の会に参加する。	・前で発表する友達に注目し、やり方を伝えたり、頑張りを認めたりしながら、積極的に朝の会に参加する。
係の仕事（話し手）	・教師の直接的な支援を受けて、係の仕事等を行う。	・教師や友達からの働きかけを受け、係の仕事等を行う。	・友達の促しや、会の進み具合を見て気付いて、係の仕事等に取り組む。 ・友達の様子を参考にして、係の仕事等に取り組む。	・活動の流れが分かり、自分から係の仕事などに取り組む。	・友達の係を意識しながら活動の見通しをもち、自分の役割を果たす。

※年間指導計画（各学年）の目標、個別の指導計画（日常生活の指導、自立活動）の目標、各授業研究会の個別の目標を基に作成。
特別支援学校学習指導要領解説（生活）を参考にした。

中学部

職業･家庭科における指導目標及び具体的な指導内容表(案)【家庭分野】

	第１段階（基礎的内容）	第２段階（発展的内容）	具体的な指導内容	1	2	3	日指	生単	作業
A 家族・家庭生活	**ア　自分の成長と家族** (ア)自分の成長を振り返りながら、家庭生活の大切さを知ること。 (イ)家族とのやりとりを通して、家族を大切にする気持ちを育み、よりよい関わり方について気付き、それらを他者に伝えること。	**ア　自分の成長と家族** (ア)自分の成長を振り返り、家庭生活の大切さを理解すること。 (イ)家族とのやりとりを通して、家族を大切にする気持ちを育み、よりよい関わり方について考え、表現すること。	・自分の成長			○			
			・家族の大切さ、感謝の気持ち			○			
			・家族とのよりよい関わり方						
			・中学生になって	○					
			・自分の将来	○		○			
	イ　家庭生活と役割 (ア)家庭における役割や地域との関わりについて関心をもち、知ること。 (イ)家庭生活に必要なことや自分の果たす役割に気付き、それらを他者に伝えること。	**イ　家庭生活と役割** (ア)家庭における役割や地域との関わりについて調べて、理解すること。 (イ)家庭生活に必要なことに関して、家族の一員として、自分の果たす役割を考え、表現すること。	・一日の過ごし方	○		○			
			・家族の立場・役割の理解						
			・家庭の中の仕事の種類や分担						
			・互いが支え合っていること						
			・自分が認められていること						
			・身の回りのことを自分で行う	○					
			・手伝い	○					
			・家族の団らんへの参加						
			・家族の一員としての存在感						
			・地域の店と町探険(学校周辺調べ)						
	ウ　家庭生活における余暇 (ア)健康や様々な余暇の過ごし方について知り、実践しようとすること。 (イ)望ましい生活環境や健康及び様々な余暇の過ごし方について気付き、工夫すること。	**ウ　家庭生活における余暇** (ア)健康管理や余暇の過ごし方について理解し、実践すること。 (イ)望ましい生活環境や健康管理及び自分に合った余暇の過ごし方について考え、表現すること。	・余暇の有効な過ごし方 (テレビ、音楽、ゲーム、手芸、園芸、飼育、休日に買い物)			○			
			・自分の健康管理		○				
			・時間の使い方			○			
			・自分に合った余暇の過ごし方			○			
	エ　幼児の生活と家族 (ア)幼児の特徴や過ごし方について知ること。 (イ)幼児への適切な関わりについて気付き、それらを他者に伝えること。	**エ　家族や地域の人々との関わり** (ア)地域生活や地域の活動について調べて、理解すること。 (イ)家族との触れ合いや地域生活に関心をもち、家族や地域の人々と地域活動への関わりについて気付き、表現すること。	・乳幼児や高齢者の特徴						
			・乳幼児や高齢者への優しい接し方						
			・乳幼児や高齢者との触れ合い体験						
			・地域の人とのつながり						
B 衣食住の生活	**ア　食事の役割** (ア)健康な生活と食事の役割について知ること。 (イ)適切な量の食事を楽しくとることの大切さに気付き、それらを他者に伝えること。	**ア　食事の役割** (ア)健康な生活と食事の役割や日常の食事の大切さを理解すること。 (イ)日常の食事の大切さや規則正しい食事の必要性を考え、表現すること。	・健康な生活についての理解		○				
			・食事の役割と大切さ		○				
			・マナーを守り、楽しい食事						
		イ　栄養を考えた食事 (ア)身体に必要な栄養について関心をもち、理解し、実践すること。 (イ)バランスのとれた食事について気付き、献立などを工夫すること。	・栄養、主食、主菜、副菜		○				
			・食品や料理の名前						
			・食事の注文						
	イ　調理の基礎 (ア)簡単な調理の仕方や手順について知り、できるようすること。 (イ)簡単な調理計画について考えること。	**ウ　調理の基礎** (ア)調理に必要な材料の分量や手順などについて理解し､適切にできること。 (イ)調理計画に沿って、調理の手順や仕方を工夫すること。	・調理用具の安全で正しい取り扱い		○				
			・簡単な調理（食品の洗い方、切り方、調味料の使用等）		○				
			・食品、食器などの衛生、衛生的な保存		○				
			・食事の準備、盛り付け、配ぜん、後片付け		○				
			・調理場所の整理・整とん						
			・調理計画						
	ウ　衣服の着用と手入れ (ア)場面に応じた日常着の着方や手入れの仕方などについて知り、実践しようとすること。 (イ)日常着の着方や手入れの仕方に気付き、工夫すること。	**エ　衣服の着用と手入れ** (ア)日常着の使い分けや手入れの仕方などについて理解し、実践すること。 (イ)日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え、工夫すること。	・清潔な衣服	○					
			・身だしなみ	○					
			・簡単な日常着の手入れ	○					
			・洗濯用器具の扱い方、洗剤の使い方		○				
			・簡単な日常着の洗濯		○				
			・簡単なアイロンがけ						
			・簡単な縫い物(布、針、糸を使った基礎縫い)						
			・簡単なししゅう、染色						
			・織物						
			・季節や場所に応じた身なり	○					
	エ　快適な住まい方 (ア)住まいの主な働きや、整理・整頓や清掃の仕方について知り、実践しようとすること。 (イ)季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方に気付き、工夫すること。	**オ　快適で安全な住まい方** (ア)快適な住まい方や、安全について理解し、実践すること。 (イ)季節の変化に合わせた快適なな住まい方に気付き、工夫すること。	・持ち物の整理整とん	○					
			・住まいの簡単な手入れ、室内の飾りつけの手伝い	○					
			・部屋の換気、採光、照明の仕方の理解、調節						
			・照明器具、冷暖房器具の安全な使用方法						
			・清掃と住居の清潔	○					
			・ごみの分別		○				
			・掃除用洗剤、殺虫剤の安全な使用方法						
			・住居周りの環境整備						
C 消費生活・環境	**ア　身近な消費生活** (ア)生活に必要な物の選び方、買い方、計画的な使い方などについて知り、実践しようとすること。 (イ)生活に必要な物を選んだり、物を大切に使おうとしたりすること。	**ア　身近な消費生活** (ア)生活に必要な物の選択や扱い方について理解し、実践すること。 (イ)生活に必要な物について考えて選ぶことや、物を大切に使う工夫をすること。	・生活に必要な物の選び方と買い方		○				
			・計画的で上手な買い物の仕方		○				
			・物を大切に使うことの理解						
			・買い物の際の相談の仕方						
	イ　環境に配慮した生活 (ア)身近な生活の中で、環境に配慮した物の使い方などについて知り、実践しようとすること。 (イ)身近な生活の中で、環境に配慮した物の使い方などについて考え、工夫すること。	**イ　環境に配慮した生活** (ア)身近な生活の中での環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解し、実践すること。 (イ)身近な生活の中で、環境との関わりや環境に配慮した生活について考えて、物の使い方などを工夫すること。	・身近な生活と環境との関わり						
			・環境に配慮した生活(資源ごみ、生ごみ、生活水など)		○				
			・自分ができる環境に配慮した物の使い方		○				
			・家族と協力してできること						
			・地域の人と協力してできること						

家庭分野指導目標：新学習指導要領、具体的な指導内容：現学習指導要領、「たのしい家庭科」より

※１年生：Ａ（ア、イ）Ｂ（ウ、エ）→衣服や清掃など　　２年生：Ｂ（ア、イ、ウ、エ）Ｃ（ア、イ）→食事、健康、ごみ、環境、買い物など　　３年生：Ａ（ア、イ、ウ）→自分の成長や将来、余暇など

中学部

職業･家庭科における指導目標及び具体的な指導内容表(案)【職業分野】

	第１段階（基礎的内容）	第２段階（発展的内容）	具体的な指導内容	1	2	3	日指	生単	作業
職業生活	**ア　働くことの意義** （ア）　働くことの目的などを知ること。 （イ）　意欲や見通しをもって取り組み，自分の役割について気付くこと。 （ウ）　作業や実習等で達成感を得ること。	**ア　働くことの意義** （ア）働くことの目的などを理解すること。 （イ）意欲や見通しをもって取り組み，自分と他者との関係や役割について考えること。 （ウ）作業や実習等に達成感を得て，進んで取り組むこと。	中学生になって	○					
			自分の将来を考える	○					
			働くことへの意欲関心		○				
			物作りや育てることへの興味						
			働く活動の大切さ		○				
			達成感・成就感・満足感						
			満足感 職業に関する基礎的な知識		○				
	イ　職業 （ア）職業に関わる知識や技能について，次のとおりとする。 ㋐職業生活に必要な知識や技能について知ること。 ㋑職業生活を支える社会の仕組み等があることを知ること。 ㋒材料や育成する生物等の扱い方及び生産や生育活動等に関わる基礎的な技術について知ること。 ㋓作業課題が分かり，使用する道具等の扱い方に慣れること。 ㋔作業の持続性や巧緻性などを身に付けること。 （イ）職業生活に必要な思考力，判断力，表現力等について，次のとおりとする。 ㋐職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について気付くこと。 ㋑作業に当たり安全や衛生について気付き，工夫すること。 ㋒職業生活に必要な健康管理について気付くこと。家庭の中での役割などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	**イ　職業** （ア）職業に関わる知識や技能について、次のとおりとする。 ㋐職業生活に必要な知識や技能を理解すること。 ㋑職業生活を支える社会の仕組み等があることを理解すること。 ㋒材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関わる基礎的な技術について理解すること。 ㋓作業課題が分かり、使用する道具や機械等の扱い方を理解すること。 ㋔作業の確実性や持続性、巧緻性等を身に付けること。 （イ）職業生活に必要な思考力、判断力、表現力等について、次のとおりとする。 ㋐職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について、考えて、発表すること。 ㋑作業上の安全や衛生及び作業の効率について考えて、工夫すること。 ㋒ 職業生活に必要な健康管理について考えること。	職業、製品などの名称		○				
			仕事内容		○				
			仕事の分担と協力						
			技術						
			時と場に応じた服装、態度、言葉遣い						
			適切な接し方						
			最後まで集中して取り組む						
			仕事の好き嫌いをしない						
			仕事内容や分担、手順						
			分からないときは人にきく						
			協調性、適切なかかわり						
			きまりや指示を守る						
			名称、操作方法	○	○	○			
			安全で丁寧な取り扱い、運搬	○	○	○			
			後片付け、整理整とん						
			計測、計量						
			管理、保管						
			安全や衛生の用語・表示への興味、理解						
			危険、不衛生の理解、報告						
			作業場を離れるときの報告						
			身だしなみ、清潔	○	○	○			
			安全、衛生、健康	○	○	○			
			電話の使い方、応対の仕方	○	△	△			
B情報機器の活用	**ア　コンピュータ等の情報機器の初歩的な操作の仕方を知ること。**	**ア　コンピュータ等の情報機器の基礎的な操作の仕方を知り、扱いに慣れること。**	パソコンの使い方	○					
			タブレットの使い方	○					
			パソコンやタブレットを使うときの約束	○	○	○			
	イ　コンピュータ等の情報機器に触れ、体験したことなどを他者に伝えること。	**イ　コンピュータ等の情報機器を扱い、体験したことや自分の考えを表現すること。**	パソコンやタブレットでできること		○	○			
C産業現場等における実習	**ア　職業や進路に関わることについて関心をもったり、調べたりすること。**	**ア　職業や進路に関わることについて調べて、理解すること。**	卒業後の生活への関心			○			
			高等部について			○			
			自立について			○			
	イ　職業や職業生活、進路に関わることについて、気付き、他者に伝えること。	**イ　職業や職業生活、進路に関わることと自己の成長などについて考えて、発表すること。**	職場の名称、仕事内容の理解	○	○				
			仕事の分担と協力						
			公共交通機関の利用への関心	○	○				
			自分の能力や適性の理解			○			

職業分野指導目標：新学習指導要領、具体的な指導内容：現学習指導要領、「たのしい職業科」より

※１年生：→身近な人の仕事、パソコンやタブレットの使い方など　　２年生：身近な社会の仕事について（ハローワーク見学）、パソコンやタブレットを使用しての学習発表　　３年生：進路学習、高等部体験と体験発表など

高等部

家庭科指導内容チェック表（案）

目標	［高等部］（家庭）　明るく豊かな家庭生活を営む上に必要な能力を高め、実践的な態度を育てる。

高等部 2段階

（家庭）	家庭の役割	消費と余暇	道具・器具等の取り扱いや安全・衛生	家庭生活に関する事項	保育・家庭看護
	(1)家庭の機能や家族の役割を理解し、楽しい家庭づくりのために積極的に役割を果たす。	(2)家庭生活における計画的な消費や余暇の有効な過ごし方について理解を深める。	(3)家庭生活で使用する道具や器具を効率的に使用し、安全や衛生に気を付けながら実習をする。	(4)被服、食物、住居などに関する実習を通して、健康で安全な生活に必要な実際的な知識と技能を習得する。	(5)保育や家庭看護などに関する基礎的な知識と技能を習得する。

	家庭の役割	1	2	3
	・自分の身の回りのこと			
	・家庭生活の仕事の分担			
	・家族の団らん			
	・来客時の対応の仕方			
	・礼儀正しい訪問の仕方			
	＜備考＞			

	消費と余暇	1	2	3
	・予算を立てる必要性の理解			
	・計画的な預貯金		数	
	・計画的な買い物		生	
	・現金とクレジットカードの違い			
	・家計の収入と支出			
	・家庭の経済計画への協力	○		
	・余暇の種類と過ごし方			

	道具・器具等の取り扱いや安全・衛生	1	2	3
	＜被服、食物、住居で必要な器具の理解＞			
	・効率的な使用方法			
	・節水、節約			
	・保守・点検			
	・食品衛生や健康維持			
	・漂白剤など消毒液の安全な取り扱い			

	家庭生活に関する事項	1	2	3
被服	・身体に合った衣服			
被服	・クリーニング店利用			
被服	・衣類の整理や保管方法			
被服	・衣服の補修			
被服	・ミシンを使った衣服の制作			
食物	・一日に必要な食物・栄養			
食物	・バランスのよい食事計画・調理			
食物	・添加物			
食物	・価格や鮮度を考えた材料			
食物	・洗い方、切り方・味付けの仕方			
食物	・盛り付けなど準備や片付け			
住居	・ゴミを減らす工夫			
住居	・手順を考えた掃除			
住居	・防犯ベルや火災報知器などの取扱い			
住居	・地震、台風、洪水などでの行動			
住居	・リサイクルの基礎知識			
住居	・修理や修繕の知識			

	保育・家庭看護	1	2	3
	・乳幼児の発達を理解した触れ合いや関わり			
	・疾病の症状や健康の回復の過程の理解			
	・高齢者のリハビリテーション			
	・食事や排泄、移動などの家庭介護			
	＜備考＞			

・各学年で学習した項目をチェック

・他教科・領域で学習した項目を記入

（国語・数学、生活単元学習、作業学習など）

高等部 1段階

（家庭）	家庭の役割	消費と余暇	道具・器具等の取り扱いや安全・衛生	家庭生活に関する事項	保育・家庭看護
	(1)家族がそれぞれの役割を果たしていることを理解し、楽しい家庭づくりのための自分の役割を果たす。	(2)家庭生活における計画的な消費や余暇の有効な過ごし方が分かる。	(3)家庭生活で使用する道具や器具などの正しい使い方が分かり、安全・衛生に気を付けながら実習をする。	(4)被服、食物、住居などに関する実習を通して、実際的な知識と技能を習得する。	(5)保育や家庭看護などに関心をもつ。

	家庭の役割	1	2	3
	・身の回りの処理			
	・家族の一員としての仕事			
	・家族の心情を知る			
	＜備考＞			

	消費と余暇	1	2	3
	・生活用品を知る・理解する			
	・現金の範囲内で買う			
	・カード利用の仕方			
	・レシート・領収書の読み取り			
	・家計簿の記録			
	・親戚や友達の家を訪問する			
	＜備考＞			

	道具・器具等の取り扱いや安全・衛生	1	2	3
	＜被服、食物、住居で必要な器具の理解＞			
	・目的に応じた選択			
	・正しい使用方法			
	・保管、手入れの仕方			
	・故障等の対応			
	・作業環境			
	＜備考＞			

	家庭生活に関する事項	1	2	3
被服	・清潔な衣服			
被服	・季節などに合わせた衣服			
被服	・材料や汚れに応じた洗い方			
被服	・布地に合わせたアイロン仕上げ			
被服	・まつり縫いや返し縫い			
被服	・ミシンを使った小物制作			
食物	・栄養素や働きの組み合わせ			
食物	・製造年月日など新鮮な食材選び			
食物	・冷蔵庫・冷凍庫の使い方			
食物	・簡単な調理計画			
食物	・献立に応じた買い物			
食物	・食材の洗い方・切り方・加熱			
食物	・適切な調味料の分量			
食物	・盛り付け方			
食物	・準備や後片付け			
食物	・外食時のメニュー注文			
食物	・食事の作法			
住居	・整理・整とん			
住居	・住まいの手入れ			
住居	・換気や照明の仕方			
住居	・室内の飾り付け			
住居	・ゴミの処理			
住居	・掃除用洗剤、殺虫剤の使用法			

	保育・家庭看護	1	2	3
	・乳幼児の生活や発達などへの興味関心			
	・高齢者への配慮			
	＜備考＞			

・新学習指導要領の内容が公表され次第、追加・訂正。

・年間指導計画作成時、キャリアノート資料として活用。

家庭科指導内容チェック表（案）

平成２９年度　キャリア教育全体計画　秋田県立横手支援学校　資料１

学校教育目標

一人一人の能力や特性を伸ばす教育活動を推進し、自立と社会参加をめざして、たくましく生きる児童生徒を育成する

めざす児童生徒像

①明るく　健康で　心豊かな明るい児童生徒
②仲良く　協調性に富み 社会性豊かな児童生徒
③元気よく　自ら意欲をもって働く児童生徒

めざす学校像

・あいさつが響きあう　笑顔のあふれる学校
・多様なニーズに応じた　一人一人の力を伸ばす学校
・地域に信頼され　地域に貢献できる学校

学部の経営目標

	小学部	中学部	高等部
①	・基本的な生活習慣を確立し、進んで体力づくりに取り組もうとする態度を育てる。	・健康で丈夫な身体をつくり、明るく元気に生活しようとする態度を育てる。	・自ら健康の保持・増進、体力の向上に努め、たくましく、思いやりの心をもち、望ましい人間関係を築こうとする態度を育てる。
②	・友達や身近な人や地域の人と仲良く学習したり、集団活動したりする気持ちを育てる。	・友達を大切にし、助け合って共に向上しようとする気持ちを育てる。	・高等部生徒としての責任感と自覚をもち、互いに尊重し合い、他者を思いやり、協力して活動する気持ちを育てる。
③	・周囲の物事や課題に、興味・関心をもち、自分の目標に向かってがんばる態度を育てる。	・学校・家庭・地域社会において自分の役割が分かり、活動に力いっぱい取り組もうとする意欲と態度を育てる。	・働くことの意義と、社会生活において果たすべき自分の役割を理解し、実生活の中で実行しようとする意欲と態度を育てる。

横手支援学校 キャリア教育の目標

児童生徒が生涯にわたり、役割を果たしながら生きていくために必要となる資質や能力の習得を通して、地域で自分らしく生き、自己実現を果たそうとする意欲や態度、価値観を育む。

学部のキャリア教育の重点

	小学部	中学部	高等部
役割を果たす	・係活動や当番活動、お手伝いなどの役割を果たし、周囲の人や地域の役に立つ喜びを感じる児童の育成。	・学校・家庭・地域社会において、自分の役割を理解し、継続的に取り組む生徒の育成。	・学校・家庭・地域社会において自他が果たす役割の必要性と意義を理解し、主体的に役割を果たそうとする生徒の育成。
自分らしく生きる	・自分の好きなこと（人、物、遊び、活動）を見付け進んで取り組む児童の育成。	・自分のよさを認め、個性を伸ばし集団生活できる生徒の育成。	・自分、そして、相手のよさを認め、折り合いをつけながら、集団の中で主体性を発揮し、行動しようとする生徒の育成。
自己実現を果たす	・自分でやろうと決めたことを最後までやり遂げようとする児童の育成。	・自分で決めた目標に向かって、自分で課題を解決しようとする生徒の育成。	・知識と体験を結び付け学んだことを基に、卒業後の生活や仕事について、主体的に選択・決定するための知識や技能、態度を身に付けようとする生徒の育成。

キャリア教育推進の基盤

専門性の向上	保護者との連携	地域との連携	関係機関との連携	啓発活動
・発達の段階に応じた指導内容の検証 ・キャリア教育の視点を踏まえた授業実践・改善 ・ICT 活用の促進	・個別の指導計画、個別の支援計画に関する個別面談 ・連絡帳での情報共有 ・進路研修会等の開催	・地域の教育資源を活用した教育活動（居住地校交流、学校間交流、地域貢献活動等）	・療育、教育機関、障害者支援施設、理解協力事業所等との情報交換 ・卒業後支援の実施	・学校HP、学校展の活性化 ・進路指導部通信の発行 ・ＰＴＡ研修会の実施 ・来てたんせウイークの実施

キャリア教育推進に関わる各分掌部の役割（校内組織づくり）

総 務 部	・保護者との連携、ＰＴＡ研修視察等の実施・学校報の発行	進路指導部	・進路指導部通信の発行や研修会の実施等による情報提供 ・外部関係機関との連携、情報交換による進路指導・支援
教 務 部	・教育課程の編成と評価・改善　・学部・学級経営案の作成 ・個別の指導計画（個別の支援計画）等の作成 ・交流活動の渉外等	保健体育部	・保健、体育、安全、給食に配慮した学習等の計画、実施
		図書情報教育部	・学校ホームページの更新・ＩＣＴ活用の推進・学校展の開催・図書読書活動の推進
研 究 部	・ライフキャリアの視点による授業実践と授業改善 ・授業研究会、職員研修会の計画、実施	支 援 部	・校内外の教育相談及び支援　・特別支援教育の教育活動の広報活動 ・特別支援教育に関わる物的及び人的資源の提供
生徒指導部	・児童生徒会の運営や集会の計画、実施　・運動会、学校祭での係活動の推進　・委員会活動、集会活動における役割の明確化 ・自己有用感を高めたり、お互いのよさを認め合ったりできるような集団づくり		

資料２

横手支援学校
授業づくりの基礎・基本
【横手のスタンダード】

児童生徒と教師が共に成長するために…

秋田県立横手支援学校

横手のスタンダード

☆この冊子には、①横手支援学校として、授業づくりにおいて大事にしたい点
②チームによる授業づくりを進めるヒント　　が書かれています。

◆単元スパンで「練り合う」→「授業する」→「振り返る」ことを基本とし、チームによる授業づくりを大切にしましょう。

１，授業設計（練り合う）

P2~3

学校教育目標
学部目標
指導の形態の目標

一人一人の将来の姿を想定した
個別の指導計画

(1)授業を構想する。

チームでの練り合い（ベースミーティング）

(2)単元を構想する。

他の学習との関連や地域資源の活用も考える。

(3)具体的な支援方針を考える。

(4)授業構想を具体化する（学習指導案の作成）。

授業設計の主な流れ
児童生徒の将来の姿を考え、
①児童生徒の育てたい力を明確にする。
②育てたい力を引き出すための指導内容を検討する。
③児童生徒の確かな学びや成長に向け、単元の展開（構成、時数等）を考える。

A　P　C　D

２，授業実践（授業する）

P4~7

(1)基本姿勢を踏まえる。

(2)学習活動を工夫する。
（承認機会、考える機会）

(3)学習環境を整える。

(4)ＴＴを機能させる。

３，授業評価（振り返る）

P8

(1)授業実践を振り返る。
- 児童生徒の変容や学び
- 基本姿勢　・学習活動
- 学習環境　・ＴＴ

チームでの振り返り→改善

(2)授業設計を振り返る。
- 手立て　・指導内容
- 単元（本時）目標
- 育てたい力

1 「練り合う」のスタンダード

授業改善ＣＯを活用！

－ ベースミーティングをしよう（授業者以外の教師も交えると効果的！）－

(1) 授業を構想する。

① 児童生徒の実態把握をする（「過去」→「現在」→「将来」の時間軸を意識して把握する）。
- 興味・関心、認知特性、対人関係スキル、社会性スキル、学習経験、既習事項等
- 本人や保護者の希望、家庭や地域での生活の様子等
- 今できていることや想定される将来の生活、社会的自立に向けて身に付けておきたい力

〔個別の支援計画、個別の指導計画〕

② 学校教育目標や学部の指導の重点、学習指導要領（各教科等における指導内容）を確認する。

> ◆学校教育目標◆
> 一人一人の能力や特性を伸ばす教育活動を推進し、自立と社会参加をめざして、たくましく生きる児童生徒を育成する
>
> ☆めざす児童生徒像☆
> 健康で，心豊かな明るい児童生徒　協調性に富み，社会性豊かな児童生徒　自ら意欲をもって働く児童生徒

③ 横手支援学校キャリア教育全体計画と、その指導の重点を確認する。＊資料１

④ ①、②、③をすりあわせ、単元や授業で育みたい力、目指したい児童生徒の姿を明確にする。

「できる」「できない」という視点よりも「育てる」という視点を大切に！

(2) 単元を構想する。＊資料４

① 目指したい児童生徒の姿を引き出す指導内容（中心課題）を検討する。

② 児童生徒にとって分かりやすい流れを組む（指導内容を組織化）。
- 単元のクライマックス＊1を検討する。
- 単元の時数を検討する。

③ 他の単元や指導の形態との関連も検討する（年間指導計画）。

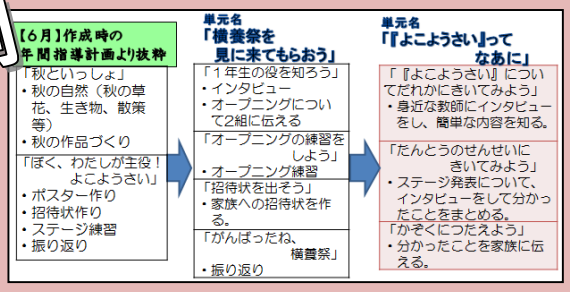
④ 生活に結び付いたより具体的・実際的な学習活動を検討する（地域資源の活用）。

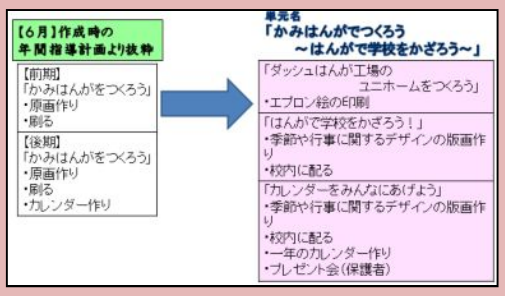
＊１
児童生徒が単元のゴールとしてイメージし、最も盛り上がる学習内容を含んだもの。

児童生徒にとって、本単元の学習の意味や価値が感じられるように…

「授業者以外の意見を聞きながら柔軟に単元計画を修正してみよう！」

例





自閉的傾向を有する児童在籍学級の生活単元学習の修正例。
分かりやすく、見通しをもって学習に取り組めるように繰り返しの学習を設定している。

－ 授業プランをたてよう－

(3) 具体的な指導内容・支援方法を考える。〔ベースミーティングを踏まえて〕

① 児童生徒の思いや願い、興味・関心に基づいた単元となっている。
② 単元を通して育てたい力が明確になっている。
・簡潔に本単元のねらいが話せる。

➡ 指導の形態の、単元において、学習活動を通して、～の力や児童生徒の姿を育てる。
また、～の力は、将来の〇〇につながる等。

③ 学校教育目標、学部の指導の重点、学習指導要領の内容を具現化したものとなっている。
④ ライフキャリアの視点「役割を果たす」「自分らしく生きる」「自己実現を果たす」を意識したものとなっている。

授業の中で大切にしたいポイント

★学習の意味付け、価値付け、関連付け【ライフキャリアの視点：役割を果たす】
- 児童生徒が**学習の必要性**を感じられる工夫がある。
- 児童生徒が**学習のゴール**や**学習と将来**との結び付きを意識できる工夫がある。
- 児童生徒が学習中に学習の**めあてを意識**できる工夫がある。
- 少し難しく、**挑戦したい**と思える課題が設定されている。
- 学習の**めあてとまとめ**のつながりが見える工夫がある。

★承認機会【ライフキャリアの視点：自分らしく生きる】
- 児童生徒が自分や周りを認める及び**認められる機会**が設定されている。

★考える機会【ライフキャリアの視点：自己実現を果たす】
- 学習のめあてやまとめ、学習活動中に、児童生徒の**考える機会**が保障されている。
- 児童生徒が考えたことを**表出する機会**が保障されている。

(4) 学習指導案を作る。

学習指導案・略案を作成する。

- 育てたい力、
- 単元（本時）の目標
- 指導内容
- 手立て等　を簡潔に記す。

2 「授業する」のスタンダード

― 授業の前に　～日々の教育活動から行っておきたいこと！　―

学習のルールづくり　　学びの構えづくり

・学習グループのみんなが気持ちよく**学習するためのルール**などは、全員（個別）で確認する機会を設けたり、視覚的に提示したりする。また、発達年齢に応じて児童生徒が話合いの中で決めるなど、日々の教育活動の中で適宜行う。

・**人の話に注意を向ける（注意を継続する）**ことは、豊かな学びを支える一つの要素であり、社会的自立に向け大事な力といえます。学びの構えづくりとして、児童生徒が「学習が始まる」ことや「誰かが話をする」ことが分かり、自分の気持ちを調整していくための工夫を普段から行うことが大切です。

＊発達の段階に応じてですが、まずは「何か楽しそうなことが始まるぞ（ワクワク）」という期待感から・・・

― 授　業　実　践 ―

(1) 基本姿勢を踏まえる。

① 健康・体調、安全や衛生面への配慮
② 明るく、落ち着いた雰囲気づくり
③ 児童生徒の反応や発信への気付きと受け止め
④ 子どもの気持ちや思考への寄り添い
⑤ 場に適した言葉遣いや態度

承認の機会につながります

児童生徒との関わり方の基本

児童生徒に伝わりやすい話し方

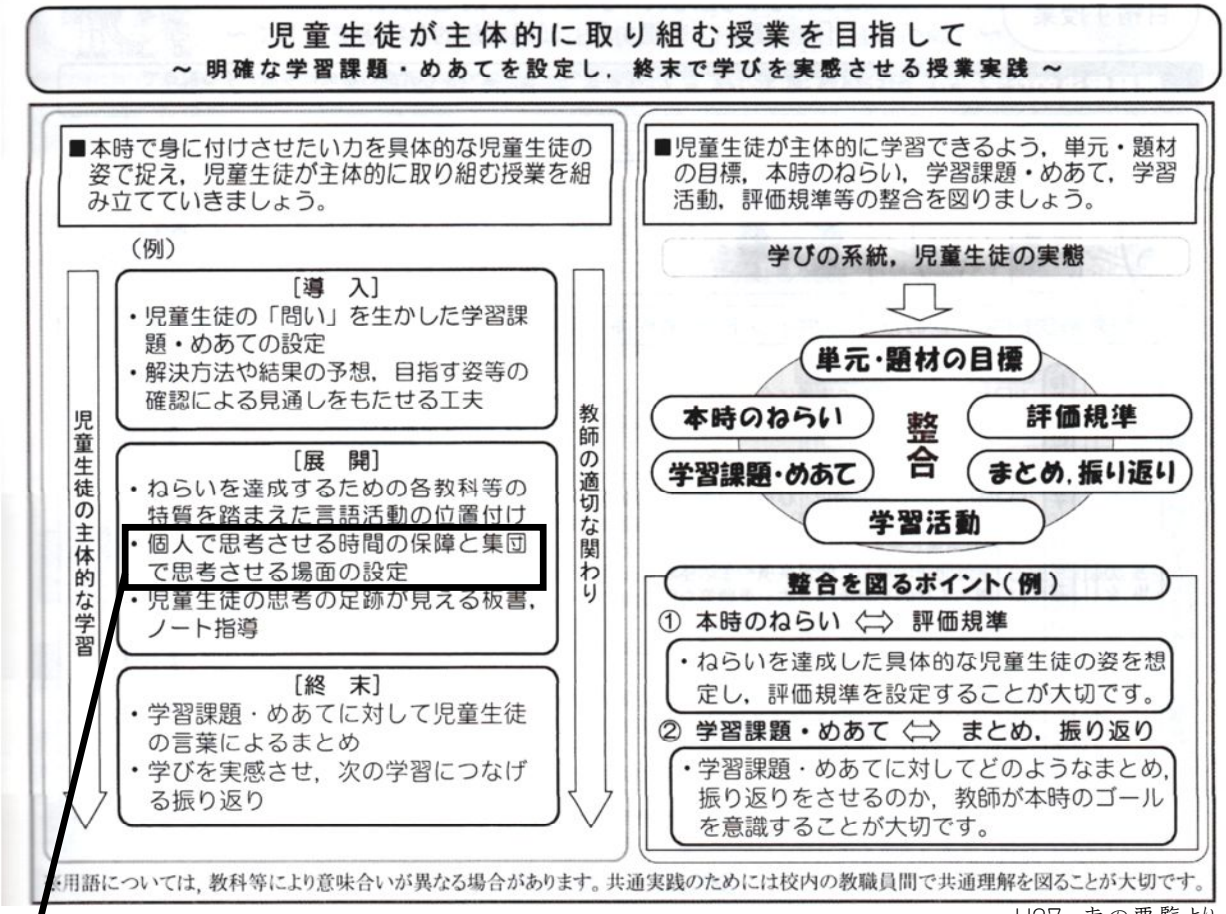
- 目線を合わせて話す
- 明るい表情、元気な声で話す
- 一文で１つの指示を話す
- 具体物を示しながら話す
  （「あれ」「それ」「あちら」×）
- 一問一答にならないように話す
- 児童生徒の理解の程度を確認しながら話す
- ユーモアも入れて話す
- 意図や内容を明確にして話す

児童生徒に寄り添った話の聴き方

- 表情をよく見て聴く
- 受容的な雰囲気で聴く
- 話を最後まで聴く
- 児童生徒の意見をつなぎながら聴く
- 児童生徒の理解の程度を確かめながら聴く
- 児童生徒の話を楽しみながら聴く
- あいづちをうちながら聴く

(2) 学習活動を工夫する。

① 導入：本時の意欲喚起、学習への見通し
② 展開：活動量の確保、めあてを達成するための活動
③ 終末：学びの実感（達成感）、次の学習への意欲喚起



H27　南の要覧より

【児童生徒の学び合いと高め合うためのポイント】

「個の学び」で終わらずに、「個の学び」を「集団の学び」につなげたり、共有したりできる工夫をする。

H29　学校教育の指針より

★考える機会の保障★

教師の言語的関わり（「説明」「指示」「発問」）を意図的に用い、児童生徒の**考える機会**を保障する。

説 明

指 示 → 発 問

・授業の中で、説明から指示・発問、説明から指示、そして発問など、意図的に用いる。

★承認機会の保障★

教師の言語掛けや雰囲気づくり、活動内容により、自分や友達を認める機会や自分が認められている実感を味わう機会を保障する。

役割を果たすことで認められる

人として認められる

・人として認められることを土台としながら、自分が周りに働き掛ける（役割を果たす）ことで、周りに影響を与えたり、喜ばれたりすることを実感できる機会を意図的に設定する。

(3) 学習環境を整える（構造化）。

例

① 「空間」の構造化

- 児童生徒と教師の動線
- 座席や道具の配置
- 感覚刺激に配慮した掲示物

「歩く場所」が分かる

順番が分かる

② 「時間」の構造化

- 「始め」と「終わり」の時間
- 活動の順番

活動の手順が分かる

終了時間が分かる

③ 「活動」の構造化

- 単元全体の計画
- 学習の流れ「何を」「どの順番」「どれだけ？」

④ 「方法」の構造化

- 活動の手順（マニュアル）
- 完成品の提示

単元の流れ（学習の軌跡）が分かる

(4) ＴＴを機能させる。

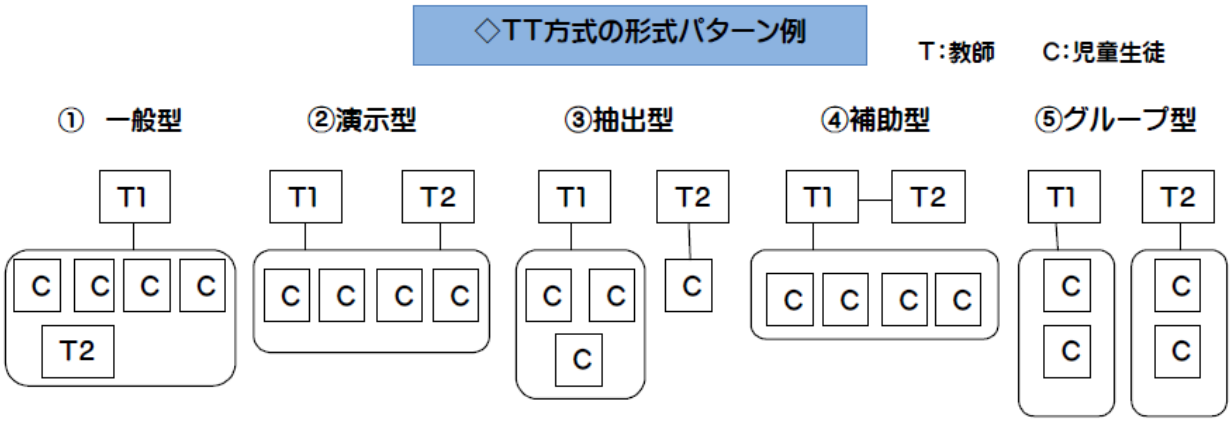
① 適正数及び役割分担が明確

② 意図のある立ち位置

ＴＴで協力して子どもたちの
学びや変容を見取ろう！！

座席配置の工夫（コの字型）
と教師の立ち位置

ティームティーチング（ＴＴ）では，複数の教員が役割を分担し，協力し合いながら指導にあたります。単に同じ場所に複数の教員が配置されているというのではありません。特別支援学校ではほとんどの授業がＴＴ方式による指導ですので，授業を行う際には，どの形式で，誰が，どのような働きかけをするのかなど役割分担をしっかりと確認しておきましょう。



3 「振り返る」のスタンダード

(1) 授業実践を振り返る。

①児童生徒の変容や学びの姿を振り返る。

・児童生徒一人一人の引き出したい姿が見られたか。学習中の表情や行動、言動など、授業中に見られた様子を出し合う。

＊意見を出し合う際には、付箋紙やホワイトボードを使い可視化する。

・本時や単元の目標が達成されたかどうかを述べ合う。

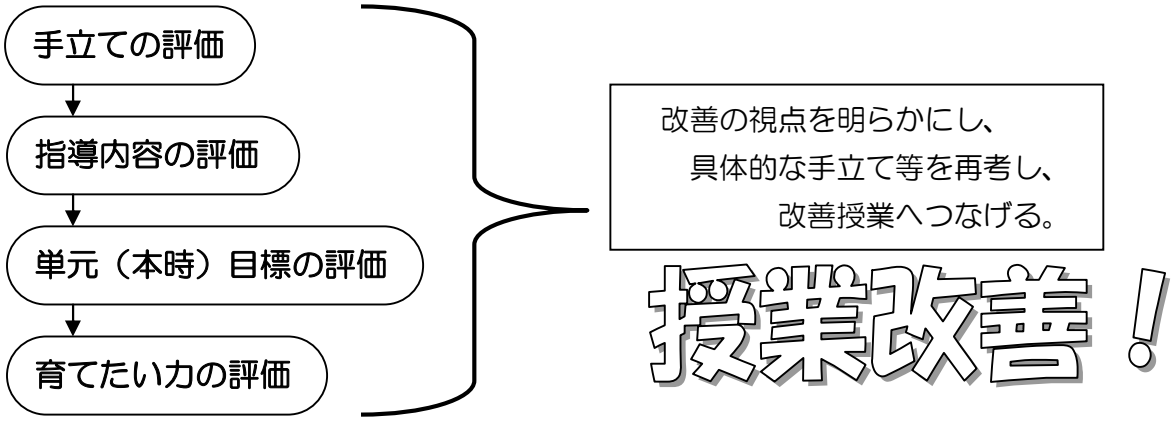
②基本姿勢、学習活動、学習環境、ＴＴについて振り返る。

・**授業づくり振り返りシート**を活用する。＊資料３

・特別支援教育のミニマムスタンダードのＢ授業実践チェックリストを活用する。

(2) 授業設計を振り返る。

◆児童生徒の変容や学びを引き出すことができたかどうかとともに、以下の点についても評価し、課題があれば修正する。



◆全校授業研究会では、「ワークショップ型協議会＋全体協議」を通して改善の視点を明らかにする。ミニ授業研では、参観者による授業参観シートと指導助言を基にして改善の視点を明らかにする。授業者はそれを基に手立て等を再考する。

◆単元終了後に年間指導計画等へ立ち返り、次単元での授業づくりに生かす（「練り合い」へ）。

〈参考文献等〉
・秋田県立横手養護学校：「研究紀要第３３集」
・特別支援教育課　総合教育センター：「特別支援教育のミニマムスタンダード」
・武田篤：「特別支援学校における授業づくりの新しい視点」～仲間と共につくる授業～
・千川隆：「特別支援教育のチームアプローチ　ポラリスをさがせ」
・平成２４年度　全校授業研究会等の指導助言、記録から
・平成２７年度　南の要覧
・平成２９年度　学校教育の指針

◆授業づくりの基礎固め◆（付録）

①「キャリア教育」って何？

「キャリア教育」とは

一人一人の
社会的自立
職業的自立
に向けて

必要な 基盤となる能力や態度 を育てること
を通して！
キャリア発達 を促す教育

キャリア発達とは、「社会の中で役割を果たすことを通して自分らしく生きる過程」と定義される。

【キャリア教育を解釈する上での留意事項】

①「社会的」
- 職業的自立のみを目指したものでなく、より広義の自立を目指したものであること。

②「必要な基盤となる」
- 能力や態度とは、就労に向けた特定の領域を示すものでなく、社会的自立のための基盤・土台となる能力や態度を意味すること。

③「能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す」
- キャリアプランニングマトリクスで示される「４領域８能力」やキャリア答申で示された「基礎的・汎用的能力」等の育成そのものを意味するものではないということ。

つまり！

キャリア教育とは、上に例示されている能力や態度の育成**を通して**、キャリア発達を促すことであり、我々は皆、**社会との関係性の中で生活する**ことを踏まえると、

児童生徒本人が経験する様々な物事との向き合い方に変化を促す教育である。
（意欲や態度、価値観）

例）
- やってみたい・挑戦しよう
- ○○になりたいな
- できるかも…
- うまくいかないときもあるさ また、明日がんばろう
- 興味がある

- 今やっている勉強は将来に向けて意味があるんだ。
- 真剣に聞いてみよう
- 難しそうだけど、やってみようかな

参考：今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）平成２３年中央教育審議会
引用：平成２７年度　横手養護学校研究部報№３

キャリア発達を促すための

②「言語環境の整備と言語活動の充実」って何？

前項でキャリア教育とは、「児童生徒本人が経験する様々な物事との向き合い方に変化を促す教育」とあるように、様々な物事との向き合い方は、他者に強要されるものではなく、児童生徒本人が自分で考え、判断し、納得していくことが大切です。

学習指導要領解説*の中には、「児童生徒が主体的に考えたり、判断したり、表現したりする力を育むためには、…言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で言語環境と整え、児童又は生徒の言語活動を充実すること。」とある。言語は、思考すること、他者とコミュニケーションをとることに加え、行動をコントロールすることにも用いられます。

キャリア発達を効果的に促すために、言語環境の整備と言語活動の充実を意識していきましょう。

＊学習指導要領解説総則編（幼稚部、小学部、中学部）P189

では、本校においては「言語環境の整備や言語活動の充実」とは、どんなことでしょうか？

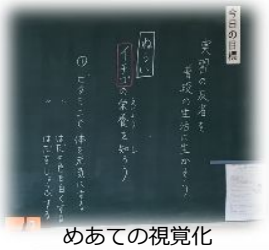
特色の柱

本に親しむ活動の設定
- 読書週間
- 読み聞かせ会

読み聞かせ会

授業レベル

言語活動を意識した授業
- 育てたい力を明確にした授業づくり
- 相手や目的意識を明確にした「話す」「聞く」「話し合う」学習活動
- 個、ペア、グループ、全体などの学習形態の工夫
- 学習のめあての視覚化
- めあてと整合性のある自己評価、他者評価



めあての視覚化

地域資源

家庭・地域との連携
- 家庭の授業参画
- 地域図書館の利用
- ボランティアによる読み聞かせ
- 司書士による図書館アドバイス
- 近隣小中の授業参観
- FMラジオ等との連携

学校生活レベル

言語環境の整備
- 教師のモデル提示（話し方、言葉遣い）
- 板書の工夫（レイアウト、文字等）
- 辞書等の活用
- 図書室の環境作り（提示や整理の工夫）
- 校内掲示物の整備・精選
- 校内放送の工夫（言葉遣い、放送内容）

教室内掲示物

読書活動

特色の柱：本校の特色の一つである読書週間や読み聞かせ会。本に親しむという側面からも意義ある取組です。全校体制で定期的・継続的に実施されており、他学部の生徒が読み聞かせをする他学部交流の機会ともなっています。

授業実践：学習めあての視覚化や学習のまとめの言語化（児童生徒の内面の読み取り）、言語を用いた学習活動や学習中に用いる言葉の精選、内言語レベルでの子どもの気持ちの代弁や気持ちを表出するための工夫など、授業の中で言語に関わる様々なしかけが可能です。

学校生活：教師の話し言葉は元より、板書や掲示物などの視覚情報（色、レイアウトも含む）の精選や工夫、放送等の聴覚情報の言葉遣いや内容等の精選や工夫が大切です。また、儀式等での情報支援もこれにあたります。

地域資源：校内資源だけでは、具体的・実際的な学習の展開に限界があります。より充実した言語環境と言語活動に向けて、活用できる地域資源は多々あります。また、家庭との連携も子どもの社会的自立に向けては大切な要素と言えます。

参考：言語活動の充実を図る全体計画と授業の工夫　独立行政法人教員研修センター

♦「言語環境の整備と言語活動の充実」と密接な関係にある「ことば」の指導について♦

◎ことばの指導の意義◎

児童生徒にとっては…ことばは考える力であり、行動をコントロールし、人とのやり取りをする手段となり、ことばを獲得することは、社会的自立に向けての必要な力の一つということができる。

教師にとっては……ことばの指導は、子どもの実態を把握し、様々な手段を活用しながら、伝えたいという気持ちや伝わったという経験を積み重ねていくことが大切であり、コミュニケーションは双方向のやり取りが重要となる。指導には、受け手の感性も求められ、その根幹には本来磨くべき教師としての本質があると言える。

＊「ことば」とは、音声言語に加え、非音声言語、音声言語以外の補助代替手段（ACC）も含まれる。

○ことばの役割○

生活の中で重要な役割があり、

主に**自分の要求の伝達**や**他者との意思の疎通**、**指示や授業の理解**などがある。

○ことばの重要性○

ことば（言語）はコミュニケーションの手段としての役割だけでなく、**ヒトは物事をことばで考えている(思考)。また、見たり聞いたりした事柄(経験)をことばで覚えたり思い出したりしている(記憶)。さらに、ふるまい(行動)をことばで操っている。**もし、ことばの発達に問題があると、コミュニケーションが難しいだけでなく、生活場面の活動や学業の習得に影響が出ることがある。

○ことばとコミュニケーション○

コミュニケーションはことばによる言語的コミュニケーションとことばによらない非言語的コミュニケーションに分けられる。

ことばによるコミュニケーション：音声言語、視覚言語（文字、手話等）、触覚言語（点字）があり、ことばを介することで、意思や考えを広範囲にまた詳細に相互に伝達できる。

ことばによらないコミュニケーション：視線、表情、身振り、指さしなどがあり、伝達できる内容は簡単な欲求や要求（ほしいものややりたいこと）、また喜怒哀楽といった単純な情動（気持ち）に限られる。

○ことばと記憶・思考・行動○

日常生活で経験する学習内容は、ほとんどことばを介して記憶している。たいていは、音声化されないことば(内言語)によって処理して記憶する。コミュニケーションは音声化されたことば(外言語)で実現されている。ことばで処理して記憶した事柄は、目的に応じて思い出すことができる。また、思考にも深く関連している。見聞したことを区別できるのは、事柄に対してことばで名前を付けており、複数の名付けられたものの共通項を見つけ分類するからである。ことばで区別され、関係付けられているものは、ことばで操作できる。つまり、思考できることになる。人は、目の前のものだけをみて考えるのではなく、これまでの蓄積された知識と関連付け、さらに先を見越して考える。つまり、思考は現在過去、未来を関係付けて成り立っている。また、ことばは行動にも重要な役割を果たしている。日常生活で習慣になった行動は、あまりことばは用いない。新しく実行しなければならない行動や複雑な行動はことばの力が必要になる。ことばで行動の目標や計画を立てて、またはより効率的なやり方を考えて実行している。

＊このように、ことばはコミュニケーション手段だけではありません。
日々の学校生活においてもことばの指導の意義を捉えて実施したいものですね。

参考：『ことばの指導　コミュニケーション能力の向上を目指して』全国特別支援学校知的障害教育校長会・編・著

キャリア発達を促すための

③「合理的配慮」って何？

キャリア教育は、一人一人のキャリア発達を促す教育である。教員は、学校教育目標の達成と児童生徒一人一人の育てたい姿の実現に向けて、教育課程の枠の中で教育実践している。これまでも教育課程の枠の中で、一人一人の実態に応じて指導目標、指導内容の配列や時数、学習グループなどを設定し、教育実践にあたってきました。そして、一人一人に応じた配慮や手立てを講じながら行ってきましたが、平成２８年４月より障害者差別解消法の施行に伴い、一人一人に応じた学びやすい環境や学びを充実させる配慮と言える「合理的配慮」の提供が義務となります。「合理的配慮」に関しては、個別の支援計画に明記することが望ましいとされており、保護者との合意形成の上で実施していくことが大切です。一人一人の学びを充実させ、効果的にキャリア発達を促していくためにも、合理的配慮についての基本的事柄を理解しておきましょう。

障害者権利条約 ← あらゆる障害者（身体障害、知的障害および精神障害等）の尊厳と権利を保障するための条約

↓ ← 2013 年 12 月 4 日参議院本会議
障害者基本法や**障害者差別解消法**の成立

日本国の**批准** → 2014 年 1 月 20 日付けで国際連合事務局に**承認**

障害者権利条約

- 「第二十四条　教育」においては、教育についての障害者の権利を認め、この権利を差別なしに、かつ、機会の均等を基礎として実現するため、障害者を包容する教育制度（inclusive education system）等を確保することとし、その権利の実現に当たり確保するものの一つとして、「個人に必要とされる**合理的配慮**が提供されること。」を位置付けている。
- 「第二条　定義」においては、「**合理的配慮**」とは、「障害者が他の者と平等にすべての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう。」と定義されている。

代表的な合理的配慮の例

◆知的障害◆
- ゆっくりと短いことばで話す。
- 見本や実物を提示して説明する。
- 文章を書くときは、見本や項目を提示する。
- 漢字には、ルビを振る。
- 視覚的に分かりやすい教材を使う。
- 話し合いや思考の際には、テーマや項目を絞る。

◆発達障害◆
- 物や絵を見せながら、短い言葉や文章で話す。
- 疲労や緊張などに配慮し、別室や休憩スペースを設ける。
- 吃音等ある場合には、話す時間を確保する。
- 感覚過敏がある場合には、教室内の音、温度、光等を調整する。

◆肢体不自由◆
- 段差のあるところは補助する。
- 板書や掲示物を見えやすい高さにする。
- 作業台や机等は、作業しやすい高さにする。
- 自筆が困難なときは、本人の意思確認をして代筆する。
- 活動することができる環境を工夫する（車いす）。

◆難病等◆
- 定期的な内服や排泄、医ケア等に配慮する。
- 体調や疲労等に配慮し、活動や休憩場所に工夫する。
- 他の児童生徒と同じように運動できない場合にも、病気等の特性を理解し、過度に排除することなく、参加するための工夫をする。

＊詳細は、「合理的配慮等具体例データ集」：内閣府
「インクルーシブ教育システム構築支援データベース」特総研　を参照ください。

★保護者への情報提供という意味からも学校外での配慮についても、目を通しておきたいですね。

◆基礎的環境整備と合理的配慮の関係◆

基礎的環境整備と合理的配慮配慮（中教審初中分科会報告より）

「合理的配慮」と「基礎的環境整備」

障害のある子供に対する支援については、法令に基づき又は財政措置により、国は全国規模で、都道府県は各都道府県内で、市町村は各市町村内で、教育環境の整備をそれぞれ行う。これらは、「合理的配慮」の基礎となる環境整備であり、それを「基礎的環境整備」と呼ぶこととする。これらの環境整備は、その整備の状況により異なるところではあるが、これらを基に、設置者及び学校が、各学校において、障害のある子供に対し、その状況に応じて、「合理的配慮」を提供する。

基礎的環境整備

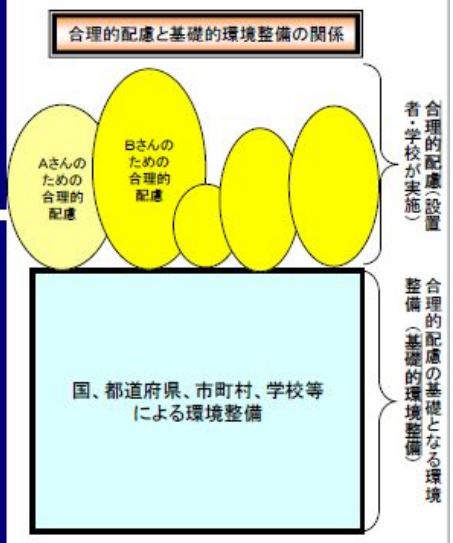
①ネットワークの形成・連続性のある多様な学びの場の活用
②専門性のある指導体制の確保
③個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成等による指導
④教材の確保
⑤施設・設備の整備
⑥専門性のある教員、支援員等の人的配置
⑦個に応じた指導や学びの場の設定等による特別な指導
⑧交流及び共同学習の推進

学校における合理的配慮の観点　**3観点11項目**

①教育内容・方法
- ①－1　教育内容
  - ①－1－1　学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮
  - ①－1－2　学習内容の変更・調整
- ①－2　教育方法
  - ①－2－1　情報・コミュニケーション及び教材の配慮
  - ①－2－2　学習機会や体験の確保
  - ①－2－3　心理面・健康面の配慮

②支援体制
- ②－1　専門性のある指導体制の整備
- ②－2　幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮
- ②－3　災害時等の支援体制の整備

③施設・設備
- ③－1　校内環境のバリアフリー化
- ③－2　発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮
- ③－3　災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮



引用：「インクルーシブ教育システム構築に向けた基礎的環境整備と合理的配慮の課題」
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所　藤本氏　資料より

前項に障害者権利条約の中に位置付けられている合理的配慮について、そして、合理的配慮の代表的な例を挙げました。

合理的配慮を実施する上では、合理的配慮の基礎となる**基礎的環境整備**についても理解しておければと思います。

「合 理 的 配 慮」とは、障害のある子供が、他の子供と平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために、学校の設置者や学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、障害のある子供に対し、その状況に応じて、学校教育を受ける場合に個別に必要とされるものであり、学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において、均衡を失した又は過度の負担を課さないものです。

「基礎的環境整備」とは、この「合理的配慮」の基礎となるものであって、障害のある子供に対する支援について、法令に基づき又は財政措置等により、例えば、国は全国規模で、都道府県は各都道府県内で、市町村は各市町村内で、それぞれ行う教育環境の整備のことです。

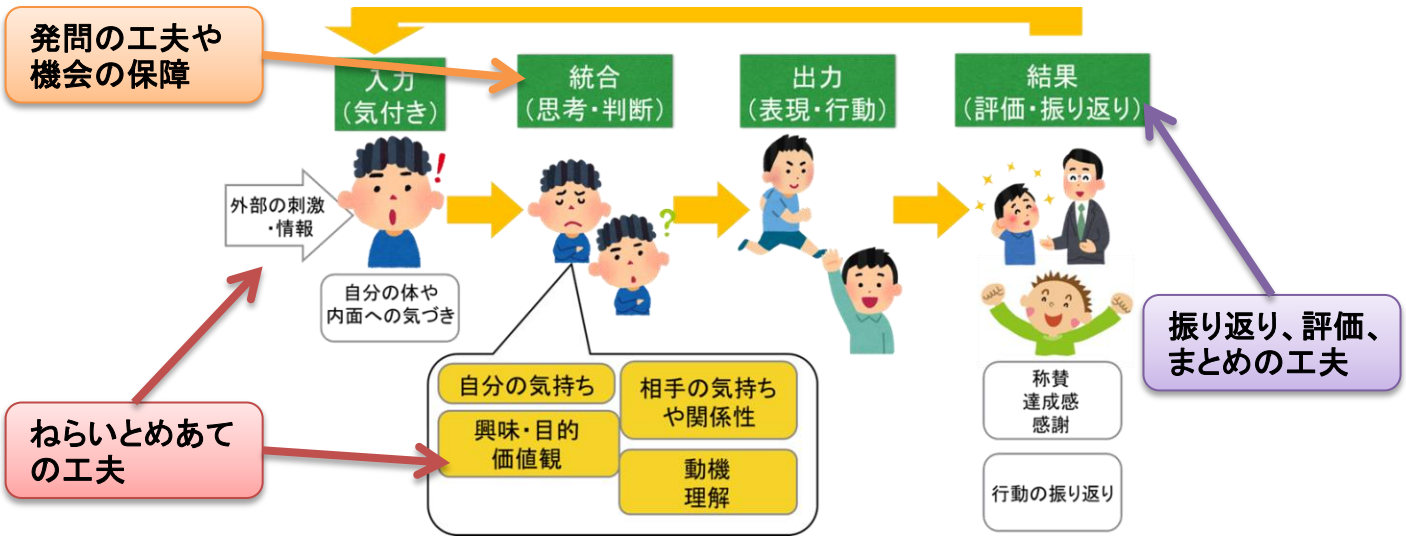
また、「合理的配慮」は、「基礎的環境整備」を基に個別に決定されるものであり、それぞれの学校における「基礎的環境整備」の状況により、提供される「合理的配慮」も異なることとなります。

なお、「基礎的環境整備」についても、「合理的配慮」と同様に体制面、財政面を勘案し、均衡を失した又は過度の負担を課すものではないことに留意する必要があります。

加えて、学校における合理的配慮の観点（３観点１１項目）についても知っておきましょう。

主体的な学びにつながる

自分らしさを発揮できる授業づくりの視点

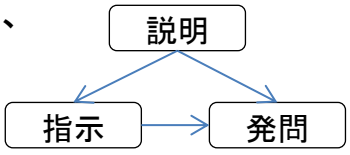


学習のねらいを設定し、めあてとして伝える工夫

- 学習の必要性を感じられる工夫
- 学習のゴールや学習と将来との結び付きを意識できる工夫
- 学習中に学習のめあてを意識できる工夫
- 学習のめあてとまとめのつながりが見える工夫
- 教師のねらいと児童生徒のめあての整合性
- ねらいを達成する方法が児童生徒にとって明確であり、意欲につながる工夫

児童生徒の内面の動きを考慮した発問の工夫や機会の保障

- 教師の言語的関わり（「説明」「指示」「発問」）を意図的に用い、児童生徒の考える機会を保障
- 学習活動中に、児童生徒の考える機会を保障
- 児童生徒が考えたことを表出する機会を保障



学習の振り返り、評価、まとめの工夫

- 教師の言語掛けや雰囲気づくり、活動内容により、自分や友達を認める機会や自分が認められている実感を味わう機会の保障

↓

- 人として認められることを土台としながら、自分が周りに働き掛ける（役割を果たす）ことで、影響を与えたり、喜ばれたりすることを実感できる機会の意図的な設定
- 児童生徒が自分や周りを認める及び認められる機会の設定
- 学習のめあてとまとめのつながりが見える工夫

「横手のスタンダード」より

資料４

地域で役割を果たしながら自分らしく生き、自己実現を果たそうとする人を育てる

横手支援学校

授業づくり振り返りシート

学級等		指導者名	

評価基準：４（よい）―３（概ねよい）―２（やや不十分）―１（不十分）

	評　価　内　容	評　価
	(1)本校の教育目標や教育の目指す方向性を理解し、指導・支援に当たっている。	4−3−2−1
授業構想	(1)児童生徒の興味・関心、認知特性、社会性スキル、学習経験等を多面的に把握している。	4−3−2−1
	(2)学校教育目標等や児童生徒（保護者）・教師の願いや思いを踏まえ、単元（題材）で育みたい力と目指したい児童生徒の姿を具体化している。	4−3−2−1
単元構想	(1)児童生徒にとって、分かりやすい流れやゴール（クライマックス）を明確にしている。	4−3−2−1
	(2)他の単元や指導の形態との関連を明確にしている。	4−3−2−1
支援方法	(1)空間の構造化（動線、配置、掲示物等）に配慮している。	4−3−2−1
	(2)時間の構造化（開始・終了の時間、活動の順番が見える）に配慮している。	4−3−2−1
	(3)活動の構造化（単元計画や学習の流れが見える）に配慮している。	4−3−2−1
	(4)方法の構造化（活動の手順等）に配慮している。	4−3−2−1
基本姿勢	(1)学習ルールが徹底されている。	4−3−2−1
	(2)児童生徒に伝わりやすい話し方をしている。	4−3−2−1
学習活動	(1)学習のめあてが提示されている（児童生徒が学習のめあてを理解している）。	4−3−2−1
	(2)導入の工夫がされている（短時間で必要な情報が伝えられている等）。	4−3−2−1
	(3)児童生徒のめあてや教師のねらいを達成するための学習が展開されている。	4−3−2−1
	(4)児童生徒同士のやりとりの場が設定されている。	4−3−2−1
	(5)まとめの時間が確保されており、児童生徒が本時の学びを実感できる工夫がある。	4−3−2−1
	(6)Ｔ１だけが学習を進めることがないように、役割分担が明確で効果的に機能している。	4−3−2−1
	(7)知識及び技能を獲得するための学習内容である。（知識及び技能）	4−3−2−1
	(8)主体的に考え、判断したり、表現したりする場面を設定するなどの工夫がある。（思考力・判断力・表現力等）	4−3−2−1
	(9)問題を発見したり、解決方法を探ったりしようとする態度（姿）を引き出す学習の展開や工夫がある。（学びに向かう力、人間性等） **【新学習指導要領のポイント：「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」】**	4−3−2−1
成果・評価	(1)単元の中で、児童生徒の変容を捉え、的確に認めて評価することができた。	4−3−2−1
自由記述	【今月の授業づくりを振り返って】	

単元構想図

資料５

◆学校教育目標◆
一人一人の能力や特性を伸ばす教育活動を推進し、自立と社会参加を目指して、たくましく生きる児童生徒を育成する

☆めざす児童生徒像☆
健康で，心豊かな明るい児童生徒　協調性に富み，社会性豊かな児童生徒　自ら意欲をもって働く児童生徒

◆生徒（保護者）の思い，願い

・
・
・

◆教師の願い（育てたい力）個別の支援計画より

・
・
・

本単元の概要（地域資源の活用、活動場所、集団の広がりを意識した単元計画）

対象児童生徒	○学部　年　組	指導の形態	生活単元学習
単元名	「　　」	時数	時間

単元計画表

小単元名	学習活動内容	主な目標	時数

目標達成に向けての主な支援

一人一人が活動に向かうために
・役割や目的を明確にする。

意欲的に活動に向かうために
・授業の導入→○○団から手紙が届く設定で始める。

活動に集中できるように
・聞く姿勢や聞く態度の学習ルールを視覚的に提示する。

自分で判断して活動できるように
・指示のあとに考える時間を設ける。

今日の学びを実感できるように
・学習の最後に・・・

活動に見通しをもって活動できるように
・単元マップを提示（視覚化）

資料６

参観オーダー記入シート

指導の形態	例）日常生活の指導	**学習グループ**	例）小学部1･2年合同
日　時	○月○日○曜日○校時　○○:○○~△△:△△	**場　所**	例）小学部1,2年生教室
題材単元名	朝の会をしよう	**授業者**	一田一男、二川二子、三山三美

参観オーダー　　**を求めているかを簡潔に書く）**

多くても、２点程度

①　例）○○さんの集中が途中で途切れ、離席が多くなる･･･

②

参観オーダー

オーダー設定の理由や見てほしいポイントなどを記入する。

①　例）○○さんには、活動量を増やして、授業へ参加できるように、進行表のめくりを担当してもらっているが、会の後半になると･･･

②

＊指導助言者には数日前に直接配付する。また、指導略案に添付する。

あ　と　が　き

「文部科学省委託　特別支援教育に関する実践研究事業　特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究」でライフキャリアの視点を大切にした教育課程の編成と地域資源を活用した授業づくりを、平成２７年度と平成２８年度の２年間研究してきました。これらの研究成果を土台に、２９年度は研究主題を「児童生徒が自分らしさを発揮できる授業づくり」とし、児童生徒の自立と社会参加につながる主体性を育むための授業づくり、「自分らしさを発揮する」姿を引き出すために児童生徒一人一人の自立と社会参加の姿を見通し、集団や活動場所を広げることを意識した単元計画の作成を行いました。

小学部では主に生活科（生活習慣）の指導内容を押さえた「日常生活の指導」、中学部では「職業・家庭科」、高等部では「家庭科」で、各学部ごとに研究主題に迫りました。

授業の中で「自分らしさ」について具体化し、「気付き、考え、判断し、表現する」ことを支援するための発問やねらいの設定や評価の工夫を行い、学習の評価を児童生徒自身が振り返ることができる児童生徒主体の授業づくりを積み重ねました。

児童生徒の「育てたい力」を担任間で確認し、個別の支援計画、個別の指導計画に盛り込みました。授業デザインでは「自分らしさを発揮する姿」を具体化し、指導案の個別の目標や本時の目標により反映できるよう心掛けました。授業づくりにおいて大事にしたいポイントを共有にした授業づくりは、授業改善を積み重ねるたびに成果と課題が蓄積され、授業研究を通して全職員が共有しました。

本研究では、小学部段階から家庭生活や地域生活を意識した学習内容（進路指導）を段展開していくことや、家庭・地域資源との連携をできるだけ早期から実施し、継続させながら児童生徒一人一人の「自分らしさが発揮できるための単元計画」の在り方、具体的な学習内容の吟味を行いました。今後は、居住地での将来生活「働く・暮らす」を見据えた授業づくりを展開し、「遊びからお手伝いへ」、「お手伝いから作業学習へ」、「作業学習から労働の教育」へと連なるキャリア形成を目指していきたいと思います。そのためにも次年度は、中学部「職業・家庭科」と高等部「家庭科」の接続を意識し、指導が這い回らないよう指導内容表を検証するなどの機会をもつようにしたいと考えます。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたり秋田県教育庁特別支援教育課指導班　近藤　千晴　主任指導主事、佐藤　圭吾　指導主事、中村　素子　指導主事の皆様から、たくさんの御指導、貴重な御助言をいただきました。

また、授業研究会に御参加いただいた秋田県立大曲支援学校、秋田県立稲川支援学校の皆様からも御意見を頂戴し、授業づくりに生かすことができました。誠にありがとうございました。併せて、本紀要を御高覧いただきました皆様より忌憚のない御意見･御指導をいただきますようお願い申し上げます。

教頭　　松井　克彦

研究に携わった職員（平成29年度）

校　長　　佐々木　明　美　　教　頭　　松　井　克　彦　　教　頭　　阿　部　洋　一

事務長　　日　野　　勉　　教育専門監　佐々木　義　範

（小学部）

永　澤　淳　子
雲　雀　登喜子
岸　　英　子
田　中　美津子
照　井　聖　子
佐　藤　深　雪
大　川　浩　平（研究主任）
森　　愛　子
岩　井　小百合
佐　藤　真紀子
佐々木　貴　子
高　橋　裕　子
髙　橋　由　衣
佐　藤　　摂
佐　藤　真一郎
小　形　美穂子
小　野　利津子
菊　池　牧　子
菅　原　美奈子

（中学部）

時　田　　航
佐　貫　亜希子
小　椋　トモ子
高　橋　知希子
藤　田　亜貴子
赤　川　由　美
鈴　木　朋　子
阿　部　潤　子
藤　谷　淳　一
後　藤　ゆり子
金　澤　めぐみ
柴　田　　豪
菅　　優　子
小　野　敬　子
阿　部　隆　文
伊　藤　文　子
赤　穂　　徹

（高等部）

髙　橋　和　恵
中　野　由利子
高　井　俊　博
井　上　裕　子
佐　藤　　恵
遠　藤　直　子
山　田　育　宏
大　川　康　博
鈴　木　　崇
小　西　和　晴
小　玉　智　彦
渡　邊　藤　子
遠　山　成　子
高　橋　静　香
近　　亜希子
青　木　真知子
鈴　木　　顕
佐　藤　剛　大
櫻　田　菜　保
内　藤　聖　子
工　藤　　彩
藤　澤　真由子
高　橋　　誠
渋　谷　康　之
中　川　浩　孝
室　井　真　美
古　関　綾　子
守　屋　充　敬
柴　田　愛　純
鈴　木　匠　子
松　岡　　一
谷　藤　イツ子
三　浦　政　雄

発行年月日　　平成３０年３月１６日
発　行　所　　秋田県立横手支援学校
〒013-0064　　横手市赤坂字仁坂105-1
TEL　0182-33-4166　FAX 0182-33-4266（小・中学部）
TEL　0182-33-4167　FAX 0182-33-4277（高等部）
Email:yokote-s@akita-pref.ed.jp
http://www.yokote-s.akita-pref.ed.jp